

KUROSHIO

March 2024 Volume 49

鹿児島県立短期大学
地域研究所

KUROSHIO March 2024 Volume 49

Index

■巻頭言

新たな教育基本計画と魅力ある県立短期大学づくり	学 長	飯干 明	1
-------------------------------	-----	------	---

■退任の挨拶

出逢いと別れに感謝	生活科学科	山下三香子	2
退任のご挨拶	生活科学科	広瀬 直人	2
退任のあいさつ	生活科学科	興儀 幸朝	3
退任にあたって	商 経 学 科	疋田 京子	3

■新任の挨拶

新任のご挨拶	生活科学科	中西 智美	4
新任のご挨拶	文 学 科	米村 大輔	4

■留学生手記

留学体験	南京農業大学3年	王 小芸	5
忘れられない	南京農業大学3年	陳 俊傑	6
温かく希望に満ちた鹿児島	南京農業大学3年	譚 桂琪	7

■学外活動の報告			7
----------------	--	--	---

■生涯学習の取り組み

2023年度鹿児島県立短期大学公開講座

『ことば』で繋がる世界—文学・言語・文化—	商 経 学 科	岡村 雄輝	8
2023年度伊敷公民館講座生き生きシニア大学	商 経 学 科	岡村 雄輝	11
2023年度鹿児島県立短期大学 奄美サテライト講座	商 経 学 科	福田 忠弘	13

■地域研究報告 2023年度プロジェクト研究

<共同研究プロジェクト>

新型コロナ支援融資等を受けた鹿児島県内中小企業の調査	商 経 学 科	宗田 健一	15
----------------------------------	---------	-------	----

<個人プロジェクト>

宇宙ゴミ排出権取引会計の基礎研究	商 経 学 科	宗田 健一	15
北海道並びに全国における障害児の高校進学状況および高校における教育内容	商 経 学 科	田口 康明	15
奄美復帰70周年に関する調査	商 経 学 科	福田 忠弘	16
奄美大島・泥染めによる美術作品の制作	生活科学科	北 一浩	16

■研究・社会活動報告

2032年度 鹿児島県立短期大学教員 研究社会活動実績一覧			18
-------------------------------------	--	--	----

■ 巻頭言

新たな教育振興基本計画と 魅力ある県立短期大学づくり 学長 飯干 明

第4期教育振興基本計画

2023年6月に、第4期となる新たな教育振興基本計画が閣議決定された。その計画は、2023年度から5年間の教育の方向性を示す指針となるもので、「持続可能な社会の創り手の育成」と「日本社会に根差したウェルビーイングの向上」が大きなコンセプトとして掲げられている。そして、基本方針として、①グローバル化する社会の持続的な発展に向けて学び続ける人材の育成、②誰一人取り残されず、全ての人の可能性を引き出す共生社会の実現に向けた教育の推進、③地域や家庭で共に学び支え合う社会の実現に向けた教育の推進、④教育デジタルトランスフォーメーション(DX)の推進、⑤計画の実効性確保のための基盤整備・対話、という5つがあげられている。

基本方針のなかで、魅力ある県立短期大学づくりのポイントとなるのが、「①グローバル化する社会の持続的な発展に向けて学び続ける人材の育成」であろう。教育振興計画における高等教育段階の目標として、「問題発見・解決能力の修得」が掲げられており、「学生に幅広い知識と教養、主体的に変化に対応しつつ学んだ知識・技能を実践・応用する力、更には自ら問題の発見・解決に取り組む力を育成する。」と記述されている。そして、「学生本位の視点に立った教育の実現」として、「学位プログラムを中心とした大学制度(注:短期大学士も含む)への転換を含めた教育課程の改善や教育の質的転換を実質化するため、課題解決型学習(PBL)による課題解決型教育などの教育内容の改善、大学ポートレートなどを通じた高等教育関係の情報の公開を推進する。」と記載されている。

第4期鹿児島県教育振興基本計画

鹿児島県は、本県の実情に応じた教育振興のための施策に関する基本的な計画として、令和6年度から5年間の計画期間とする「第4期鹿児島県教育振興基本計画」の策定作業を進めているところである。その計画では、教育の基本目標を「夢や希望を実現しともに未来を創る鹿児島の人づくり」としている。基本計画案における教育施策の方向性の一つが、「信頼され、地域とともにある学校づくりの

推進」であり、その中には、これまでの教育振興基本計画と同様に、「魅力ある県立短期大学づくり」があげられている。そして、「高度情報化やグローバル化に対応する教育など時代の要請に対応した教育内容や教育方法の充実などに取り組むとともに、地元企業等と連携した人材の育成及び定着に取り組み、地域住民のリカレント教育にも貢献する魅力ある県立短期大学づくりを推進」という記述がなされている。また、具体的な取組として、「文理融合による情報教育などの教養教育と専門教育のバランスのとれた質の高い教育、地元鹿児島県の魅力を伝える講義や体験学習の実施など鹿児島県の魅力を活かす教育、国際感覚の涵養を目的とした学生の海外研修や海外留学の実施及び語学学習の自学自習支援など国際化に対応する教育の充実に努め、課題探求・解決能力を有し、持続可能な社会の創り手として将来の鹿児島を支える人材の育成に努めます。」と記載されている。

県立短大の取組

鹿児島県が教育基本計画案の「魅力ある県立短期大学づくり」で求めるグローバル化については、文学科英語英文学専攻が学生の学力の変化やニーズに対応するため、令和5年度からカリキュラムを改訂し実施している。そのほかに、県立短大では他の学科を専攻する学生もグローバル化に対応できるよう、英語の自学自習環境を整備することを検討している。なお、高度情報化については、「GIGAスクール構想」による1人1台の情報端末を使用してICTを活用する教育を受けた生徒が、令和7年度から進学してくることを踏まえ、県立短大での教育内容や教育方法について検討を進めるとともに、教育DXの推進も視野に入れた取り組みが必要であろう。

大学基準協会により2025年度から実施される第4期認証評価では、「学習成果を基軸に据えた内部質保証の重視とその実質性を問う評価」などがポイントになると公表されている。したがって、専門教育や教養教育における学習成果の向上を基軸に据えながら、本学の教育をさらに充実させていく取り組みが求められよう。なお、本学では、地域貢献について公開講座や金曜講座、奄美サテライト講座などを通して積極的に行っているが、今後は、人生100年時代のマルチステージにおけるリカレント教育のあり方についても検討し、さらに地域に貢献していく必要がある。

■ 退任の挨拶

出逢いと別れに感謝 生活科学科 山下 三香子

退職を目前に、時計の針が急に進みだしました。14年間の常勤に非常勤を加えると約19年間、この門をくぐったこととなります。その間に、先に退職された先生方からは人生の先輩として多くの有難い言葉を、今いる先生方からも沢山ご助言を頂きました。県短の先生方と作った「カツオ今昔物語」の本では、枕崎に向いたり、公開講座や金曜講演会と一般の方までご縁が広がりました。また、島津義弘公のゆかりの地吹上へ義弘公が兵糧としたといわれている「あくまき」などの郷土菓子の歴史を辿る講演に商経の先生方と行きました。休日には親しい先生方と山や海、小旅行と専攻を超えた交流もありました。学生とは給食の試作や編入の指導に時間を割き、フィールドワークで種子島や出水等1泊の健康・食生活調査にも行きました。中でも糖尿病レシピコンテストでは東京まで一緒に行って、2回の優秀賞(全国2位)や複数の表彰に歓喜しました。県短の森では、四季折々の草花や木々、鳥や狸、蛇にも出くわしました。ここで採れた桑の実をジャムやジュースにして学生と飲みました。まさに少人数制で学生との距離が近いという食物栄養専攻の売りを実践して来ました。笑いが絶えず、本当に心から楽しかったです。県短での私の思い出が、学生の1ページになっていたら幸いです。

私にとってここでの時間は修行でもありましたが、かけがえのない至福の時でもありました。ふと振り返った時、私の心に浮かぶ言葉に「縁尋機妙、多逢聖因」があります。この言葉は、良い縁がよい縁を結び発展していくさまは妙なものであり、良い人と交わっていると良い結果に恵まれる、という意味です。ここでの日々は、まさにこの言葉がぴったりです。そして、思無邪(思いよこしま無:父の名前)という思いでやってこれたことに、感謝と共に潔い気持ちでもあります。多くの皆様のご支援があってこそ、ここでの教員生活を送ることができたと思つづく思う今日この頃です。

最後に、皆様のご健康とご多幸を心からお祈りいたします。

退任のご挨拶 生活科学科 広瀬 直人

2022年4月に沖縄県から着任し、最初に驚いたのは夜の寒さでした。「隣の県だから」という気の緩みもあったのでしょうか、それとも出発前日までの(ほぼ)半袖陽気に油断していたのでしょうか、手持ちの服を重ね着し、「備えあれば患いなし」という言葉を文字どおりかみしめながら23年ぶりの寒さを実感していたのが、つい先日ようです。話には聞いていた桜島の火山灰や、とにかく多い坂道に閉口しつつ、同時にこれらの恩恵ともいえる豪快な自然と美味しい空気、多彩な海の幸と山の幸、そしてなにより(質も量も)豊富な温泉に癒された、あつという間の2年間でした。

これまでのキャリアのほとんどを公設試験研究機関の研究者としてすごしてきた私にとって、講義はもとより学内業務の多くは慣れないものでしたが、食物栄養専攻をはじめ経験豊富な多くの先生方に懇切かつタイムリーなサポートを頂きつつ、貴重な経験を積むことができました。また、ライフワークのひとつである黒糖の研究では、研究成果の社会還元として続けてきた沖縄県の黒糖工場巡回指導に加えて、新たに種子島の黒糖生産者組合とリンクできたことは、鹿児島で得られた大きな収穫のひとつです。

2024年度からは私のメインフィールドである食品加工研究をさらに深化させるべく、九州大学にて新たな挑戦を始めることになりました。和にとどまらず洋・中などの食品を巻き込んで、日本の食文化は世界でも稀といえる多様な進化を遂げています。そんな流れのなかで消えていった食品や食材が数多くある一方、鹿児島で出会った「あくまき」をはじめ、今なお脈々と伝えられている伝統食や伝統的農産物があります。これらは文化的側面だけでなく、栄養健康的な「何か」を持っているがゆえに生き残っているのではと考えています。今後は、その「何か」に食品科学的観点からアプローチし、解明していきたいと思っています。

最後になりましたが、お世話になりました全ての皆様に、深く感謝いたします。ありがとうございました。

退任のあいさつ
生活科学科 與儀 幸朝

2023年4月に着任しました。それまでは国立大学で7年半、公立中学校で約20年間勤めていました。中学校では保健体育の教員として生徒一人一人が運動の楽しさや喜びを味わう授業、また運動やスポーツが好きになる授業を心がけて実践してきました。大学では教育学部の教員として、運動学、保健体育科教育学、柔道の講義を担当して、現場に求められている実践的指導力を兼ね備えた人材を育てることに重点を置いて指導してきました。主な研究分野は、保健体育の授業研究と体力・運動能力に関する領域です。

県立短期大学では、生涯スポーツ実習Ⅰ・Ⅱ、スポーツ健康論、健康管理概論を担当しました。生涯スポーツ実習では、ゴール型のバスケットボールやネット型のバレーボール、バドミントン、テニス、卓球などの講義を通して、生涯にわたって豊かなスポーツライフの実現に向けた個別最適な学びと協働的な学びの充実を図る取り組みを重視しました。スポーツ健康論では、健康の三原則（運動・栄養・休養）の観点から今日的課題の解決に向けた題材を取り上げて、生涯を通じて自らの健康を適切に管理して改善していく資質や能力の育成に取り組みました。健康管理概論では、スポーツ健康論をさらに深化させた内容で個人および社会生活における健康管理について科学的・総合的な観点から多様な形態を取り入れた講義を展開しました。県立短期大学で担当した全ての講義において、学生が主体的に取り組んでくれたので授業者としては、とても展開しやすくて教材研究にもやりがいを感じていました。また、学生とのかわり合いのなかで私自身多くの学びがありました。

さて、4月に着任したばかりで大変恐縮ですが、2024年3月をもって私的な事情で退任することになりました。在任期間わずか1年で転出をお許しください。県立短期大学で「何をしたのか…」と、自問自答する日々です。少なくとも私の講義を受講してくれた学生が、授業を通して習得した知識やスキルをこれからの人生で活かして、「健康」で社会生活を送ってもらえれば幸いです。

退任のごあいさつ
商経学科 疋田 京子

県立短大の専任教員になってから23年、着任は福岡から鹿児島に移住してから10年目の2001年でした。40歳過ぎてましたが専任は初めてで、着任早々、本学の学生が巻き込まれる事件や事故が立て続けに起き、命を預かる仕事なんだと足がすくんだのを覚えています。

担当科目は、「労働法」「民法」「法学特講」「法学概論」「現代人権論」「平和論」と幅広く、日々情報がアップデートされる科目は講義の準備に孤軍奮闘でした。それでも学生が反応してくれたりすると嬉しくて、毎回書いてもらう「出席票」を見るのが楽しみでした。アルバイト先での悩みなど、時代の変化や世代を感じたり、ジェンダー研究や労働法分野の課題などを新たに発見する機会にもなりました。「ジェンダー」という概念はこの30年の間に変容したと言ったら同僚の先生が驚いていましたが、その変容を学生との対話の中で直に感じる事ができたわけです。

ゼミでは、法学に興味をもってもらおうと、裁判傍聴や外国人支援活動をする人たちにインタビューするなど、学外に出たりと試行錯誤しましたが、法学研究室として当初掲げたテーマを最後までやれたのは数回です。卒論の締め切りにはハラハラしましたが、出来上がった卒論を読んで、改めてその学生の意外な面を発見するということが何度かありました。

研究では、何と言ってもインドネシアとの出会いは在職中の大きな出来事でした。本学の異文化体験の引率がきっかけで、交流協定を結んでいるバンドンのパジャジャラン大学に一年間留学することができました。イスラムに対する警戒感が高まった時期に、世界で一番イスラム教徒の多い国を近い国と感じられるようになったことはとても大きな転機でした。民主化直後の一番活気あふれる時期に、慣習や宗教などの非国家法も重要な法源とする法多元主義の国家理念が具体化する過程を目撃できたわけです。全ての答えを国家法の中に求める法思考にとっては新鮮でワクワクする体験でした。

こうして書き連ねると得たものばかりで、十分に還元できなかった自分が不甲斐ないです。それにも関わらず支えてくださった方々に、本当に感謝申し上げます。ありがとうございました。

■新任の挨拶

新任のご挨拶 生活科学科 中西 智美

2023年4月に着任しました中西智美と申します。学校栄養職員、栄養教諭として約30年、学校現場、教育行政等を経験し、児童生徒の学校給食の管理と食育指導に携わってきました。どうぞ宜しくお願い致します。

目の前には、いつも子供たちがいました。これまでの経験から、今後大切にしていきたいことを考えてみます。学校においては、教育や栄養に関わる様々な法改正をはじめ、腸管出血性大腸菌0157食中毒事件による衛生管理の大幅な見直し、東日本大震災を契機とした災害備蓄食の検討、新型コロナウイルス感染症による食事内容変更・食環境整備など様々な社会変動への対応が求められました。また2005年栄養教諭制度が創設されて以降、栄養教諭は健康教育の基盤である食育推進の中核として、その先導役やコーディネーターの役割も期待され、多様な職務を担っています。

勤務年数の長かった特別支援学校では、口腔機能の発達段階に応じた食事管理や発達障害等による食への困難さなどに直面し、現場の栄養教諭や教職員も指導上の困難を抱えている現状がありました。多種多様な疾病や障害の重度化・重複化・多様化に対する日々の実践は、個別性の高い指導方法でありながらも、全ての学校において様々な課題を抱える児童生徒の食支援の一助になりうるのではと考えています。誰一人取り残さないよう、基礎的環境整備や合理的配慮などは、特別支援学校のみならず食育の原点として全ての教育現場、全てのライフステージで配慮すべき方向ではないかと考えます。今後より幅広い専門的な視点や特性を理解した指導を行うために、必ず子供やその対象者を中心に、多職種と連携し、より良い食支援を継続するための研究も深めていきたいと考えています。

まずは、栄養士として心に寄り添う栄養教育に対応できるような教育活動に取り組みます。そして、どのような状況に置かれても、自身の食を整えられる「食べる力」を養うことを、近い将来、指導者として活躍するであろう母校の後輩へ実践を促したいと思います。

新任のご挨拶 文学科 米村 大輔

2023年4月に文学科英語英文学専攻に着任しました。どうぞよろしくお願い致します。これまで鹿児島には一度も訪れたことがありませんでした。ダイナミックな地質、島津家の歴史が色濃く反映されている独特な文化、そして目まぐるしく変化する気候に圧倒されている毎日です。鹿児島中央駅に始めて降り立った日、桜島の噴火を目の当たりにして慌てて避難しようとしたことを思い出します。降灰で道路と車が灰色一色の景色を目の当たりにすることもあり、鹿児島での日常がとても新鮮でした。マグマの恩恵なのか所謂銭湯がほぼ全て天然温泉であったのは、温泉好きである私には僥倖に尽きます。お茶や海産物といった特産品や火山を有しているなど故郷の静岡と共通する部分は多いですが、鹿児島の風土は別格だと感じました。

静岡では英語科教員として、四半世紀以上にわたり私立中・高等学校に勤めて参りました。1日の大半を生徒達に囲まれて過ごし、幸せな日々を送っておりましたが教室指導に限界を感じ第二言語習得論や外国語教育論の研究を始めました。しかし研究をすればするほど外国語教育の難しさや奥深さを実感し、研究と教育実践の両立を求めて大学への転職を決意しました。現在はライティングフィードバックを中心に研究を進めております。英語の「書く」技能を向上させる研究を通して、自立した学習者を育てることを目標としています。また課題プロジェクトとして、タブレット端末を使用した英語教育方法論に主体的・対話的な学びの視点から取り組み、理論と実践の往環の実現を図っております。

本学はととても真面目な学生が多いと感じました。専門科目外である教養英語にも手を抜くことなく真摯に学びを深めていこうとする姿勢に驚きつつも、襟を正される思いでした。今後ますます加速していくICTの発達により英語教育も大きく変わろうとしています。教育界全体が目まぐるしく変化していく中、学生たちと共に最適な英語学習を模索しながら研究と教育に力を入れ、本学に貢献して参りたいと思います。

■留学生手記

留学体験

南京農業大学3年

王 小芸 (おう・しょうげい)

4月1日、飛行機を降りて初めて日本の地を歩いた夜、「今、日本にいるのだろうか?」と夢の中にいるような超現実的な感覚に陥ったことは今までも覚えています。スーツケースを抱えて日本の街を一人で歩き、歩行者に興味深げに、少しおそおそと観察していました。聞き慣れた中国語はもはやなく、見慣れた中国の街並みもここにはありませんでした。地下の駅前で笑っている若くておしゃれな服装の人たち、仕事を終えたばかりのスマートなスーツ姿の男性たち、通りの左側を整然と移動する車など、私はその斬新さと不思議さに衝撃を受けました。「テレビ番組と同じだ!」

鹿児島での留学生活は、毎日が楽しくて幸せです。登校初日、先生やクラスメートのことが理解できないのではないかと、仲良くなれないのではないかととても不安でした。しかし、学生たちはとてもフレンドリーに接してくれました。ここで良い友達を作ることができ、言葉が心を通わせる障壁になっていないようで、とても幸運だと感じています。

また、この先生方もとても好きです。土肥先生の授業で、初めて中国語の文法構造を日本人的な考え方で見ることになりました。パトリック先生とニコライ先生の授業では、アジア以外の国についても学ぶことができました。体育の授業で何度も励ましてくれる気さくで熱心な興儀先生や、英語の授業が終わるたびに優しく声をかけてくれる小林先生には、深く温められ、感謝しています。松元先生はとても辛抱強く私に対して書道を指導してくださったので、書くのが遅い私もまあまあきれいな筆の字を書くことができました。

小亀先生の授業スタイルはとても個性があり、それは学問は厳格で深くて分かりやすく、ユーモアを失わないことです。この未体験の授業スタイルが、いつも授業を受ける前から楽しみになっています。率直に言って、小亀先生の学生になれることは大変光栄なことです。

最も私を感動させたのは竹本先生と楊先生です。将来は日本への留学を考えていたので、日本の大学院への出願など、たくさんの質問をしました。お二人の先生はとても親切に迎えてくださり、私

の質問に丁寧に答えてくださいました。楊先生は中国の先輩の例をたくさん挙げてくれて参考になりました。竹本先生は、私の日本語の聞き取りに合わせて簡単な日本語表現を選んでくれたり、とても的確なアドバイスをしてくれました。

鹿児島は本当に住みやすいところです。生活のペースはとてもゆったりしていて、景色も美しいです。毎日が温かくて幸せで、感動しました。以前はすぐに諦めてしまう性格で、何事にも悲観的でしたが、この数ヶ月で生活環境が激変したため、内なる恐怖心を少し無理やり克服して困難に立ち向かい、新たな試みをしなければならなくなりました。初めて料理をしたこと、初めてアルバイトをしたこと、初めて一人で人と日本語で交流してみたことなどなど。このような変化をととても嬉しく思い、大切にしています。ここでの記憶、出会ったすべての親しみやすいかわい先生と友達のことを深く脳裏に焼き付けておきたいです。



忘れられない

南京農業大学3年

陳 俊傑 (ちん・しゅんけつ)

「いつか、この景色が思い出に変わるその時、貴方は何を覚えていたいですか…」というのが、初めて日本に来たときインスタで見た日本の美しい風景を流す動画でのせりふだ。

南京農業大学から県短に来た初めての男子の留学生として、最初はちょっと不安だったが、授業が始まると、学生たちが私の隣に座って話しかけてきた。「これからの勉強や生活のこと、何でも聞いていいよ。」土肥先生の履修指導、そして日本語で読むせいか馴染みがあるようなないような感じの中国文学作品、小亀先生は鹿児島弁で「タイヨーカード」を真似、楊先生は私たちを学生に親切に紹介してくれ、さらにおしゃれなレストランでご馳走、歓迎式では先生や学生代表が出席して歓迎スピーチをしてくれたし、学長も歓迎の気持ちを表すために中国語を話して食事券もくれた…。すべてが楽しくて温かく、すぐに学校の勉強生活に慣れた。

住んでいる国際交流センターから県短まで自転車で20分ほどだ。天気がいいときは、いつも放課後にゆっくり景色を見るようにしている。時々ぶらぶらして桜島をはじめ錦江湾や鹿児島市街地を一望できる城山展望台に行く。

センターでは、日本、中国、ベトナム、ブラジルなどからの留学生と一緒に生活し、よくパーティーを開き、生活面でもたくさん助けてもらった。ゴールデンウィークに日本人の友だちと鹿屋の大隅広域公園で開催されたこども記念日イベントにも参加した。そこで民族楽器、缶バッチ作り、民族衣装体験、文化紹介などを通じて、市民と交流し、謝金ももらった。鹿児島から鹿屋に向かったのは初めてで、フェリーに乗って、朝日と夕日を見て、名物うどんを食べて、のんびりとした美しい日本の田舎も見た。その後、居酒屋で打ち上げも開いた。

「言葉をより多く身につけることは、より多くの異なる経験を、異なる経験として弁別する力を身につけること…」というのは小亀先生から学んだことだ。かつて中国で学んだ日本語は文字によるもので、経験によるものではなかった。日本に来て、このような経験を直接体験することで、経

験－意味－言葉という回路が洗練され、日本語能力が向上しただけでなく、考え方も広げることができた。楊先生の中国語授業に参加すると他の専攻の学生もいて、中国語や日本語を使って異なる国の若者と考え方や言語の表現を交流することができて、いい友達になれた。ここで私は興味のある言語学について多くのことを学ぶことができた。小亀先生と楊先生には本当に感謝している。毎回の授業で啓発されているのを実感する。

若いうちに海外に出たりいろんな人に会ったり、いろんなものを見て考え価値観を広げるのは大事だと思う。この4か月間日本に来てからいろんな所で友達をつくったり、つながりをつくったり、専門知識を身につけたり、とても有意義で刺激的な人生を送っている。

4月に鹿児島に来たとき、自転車で「桜島と芸術花火2023」を見に行った。花火の美しさは一瞬というが、その瞬間は、その美しさを忘れまいと努力すれば、一生色あせることはないだろうと感じた。



温かく希望に満ちた鹿児島

南京農業大学3年

譚 桂琪 (たん・けいき)

タイトルの「鹿児島」という文字を書いたとき、最初に浮かんだのは6月の夕方のピンクの夕焼けで、温かくて希望に満ちたものでした。これが鹿児島という街に3ヶ月住んで感じた最大の思い出でした。

鹿児島に来て最初の特別な出来事は、4月8日の「花火大会」でした。夕日に照らされながら海に行くと、桜島に黄金色の輝きが降り注いでいました。人混みの中、夜になる前に絶好の場所を見つけられました。最初の花火が打ち上げられると、周りのざわめきは静かになり、私の心はどきどきしはじめました。初夏、夜風、友人、花火、空いっぱいの花火をきっかけに、私の鹿児島生活が始まりました。

4月の初めに友達が私の一番好きな歌手のコンサートのチケットを買ってくれたので、私は自力でこの香港でのコンサートを見に行くことを決めました。中国では卒業まで両親が学費や生活費をすべて負担してくれるのが一般的なので、みんなほとんどアルバイトをしたことがありませんが、今回、異国の地でアルバイトを試みることにしました。そのコンサートを見るためだけでなく、日本のアルバイト文化を体験して、仕事の中でいろんな人々とコミュニケーションしたいです。最終的に住まいの国際交流センターの近くにあるコンビニで働くことになりました。店長や同僚がとても優しく、仕事の進め方を丁寧に説明してくれたのも鹿児島の温かさを感じました。

もちろん留学生活の中心はやはりここ鹿児島県立短期大学で、私にとってここは温かみと希望のキャンパスです。入学式で学長と先生たちは私たちの到着を歓迎してくれて、鹿児島での5ヶ月間が有意義なものになるよう願ってくれました。土肥先生は私たち、カリキュラムや授業の選択について丁寧に説明してくれましたし、授業以外のことも考えてくれて、国際交流センターでの生活を見守ってくれました。すべての先生方は、私たちへの対応を真剣に考えてくれて、私たちが授業内容を理解できるようにしてくれました。クラスメートたちもとてもフレンドリーで、私たちの疑問点を解決してくれました。異国の地での孤独を

忘れて、新しい一週間を楽しくスタートできました。

鹿児島はとても美しいところで、南京と違って、鹿児島は海沿いで光があふれているので、晴れた日には私の気持ちもうらかな気持ちになります。せっかくの美しい景色を裏切らないよう、私たちはいろんなところに行って、この美しい火山都市を記憶の中に残したいと思っています。悠久な歴史に山と海の仙巖園、青く静かな鹿児島市水族館、私が愛してやまない深い青の与次郎の海辺。あるときは駅を降りて緑の森の奥にある平川動物公園に入り、放課後には思い立って城山展望台に登ってみると、そこからの眺めは市内一面に100パーセントの光が射し込んでいるかのようで、温かくて希望に満ちています。

夏には、鹿児島の温かさをもっとたくさんつかみとるようにしたいです。



■学外活動の報告

海外研修について

例年、9月に行われてきた異文化コミュニケーション（英語：ハワイ大学付属カピオラニ・コミュニティ・カレッジ、中国語：南京農業大学）は、感染拡大防止に配慮して、令和5年度は中止となった。

2023年度鹿児島県立短期大学公開講座（鹿児島県民大学連携講座）

『ことば』で繋がる世界－文学・言語・文化－

商経学科 岡村 雄輝

本年度の公開講座は、文学科の教員が各々の専門領域から、人間にとって最も身近でありながら、謎だらけのことばの世界に誘うという趣旨のもとに『ことば』で繋がる世界－文学・言語・文化－と題して実施された。5月20日から7月2日まで毎週土曜日の午後、全8回におよんだ本講座は、受講登録者数45名、延べ受講者数275名であった。全8回のうち6回以上受講した32人には修了証が授与された。以下では、講座各回の担当者とテーマ（表1）、講座概要を掲載する。

表1 各講座の担当者とテーマ

回	実施日	担当者（所属）	テーマ
1	5/20	小亀拓也（文学科）	「ことば」と体験との関係を方言を通して見る
2	5/27	米村大輔（文学科）	ことばは海を越え、時を越え一言で紡ぐイギリスとアイルランドの物語ー
3	6/3	竹本寛秋（文学科）	島から世界へ、つながる詩のことば カウンターカルチャーと鹿児島の島々
4	6/10	楊虹（文学科）	ことばの対照から見えてくるもの
5	6/17	遠峯伸一郎（文学科）	ことばを繋ぐ言葉 英語の借用語を通して見る他言語との繋がり
6	6/24	小林朋子（文学科）	少年は「ことば」で世界と繋がろうとする ー『ハックルベリー・フィンの冒けん』と『ライ麦畑でつかまえて』ー
7	7/1	木戸裕子（文学科）	朧月夜（おぼろづきよ）に似るものぞなき ー漢詩と和歌の間ー
8	7/8	ガルシア・アロヨ ホルヘ（文学科）	アーネスト・ヘミングウェイの作品における「nada」という言葉の象徴と、スペインの文化におけるその真の意味

◇各講師の講座内容は次の通りである。

第1回 小亀拓也

「ことば」は、我々を取り巻く事物に対して貼られるラベルのようなものだ——このような捉え方は一見穏当なものにも思える。しかし、その対象となる事物が各個人の体験的把握のような極めて主観的なものであるとき、この捉え方ではうまく分析できない場合が出てくる。

本講座では、方言に関する基礎的な事項（①「方言」「標準語」「共通語」の意味とその関係、②江戸時代以降における方言への価値評価の変遷など）を確認した上で、俚言がしばしば持つ独特な体験の意味を足がかりに、「ことば」が人間の認識のあり方を規定すると見うる例があることを示した。

第2回 米村 大輔

イギリスの歴史を紐解いてみると、諸外国からの侵略によって、あるいは大英帝国として世界を席卷することになる諸外国への侵略によって英語は言語として大きく変容していったことがわかる。そういった観点で見るとイギリスにおける言語史は17世紀を境に二重構造の形を作っていることがわかる。本講座では言語が大陸「からの」侵略によって様々に変容していった前半と、近代英語として形成された言語が大陸「への」侵略によってリングフランカとして変容していった後半に分け、一つのイギリス物語としてことばの移り変わりを伝えた。クイズやディスカッションも交え、言語史の理解を深めた。

第3回 竹本 寛秋

鹿児島と世界をつなぐものとしてのカウンターカルチャーについて紹介した。1960年代にアメリカ・カルフォルニアを中心にして起こったビート運動が、どのようにして日本に波及したかを、当時の社会状況と照らし合わせながら解説した。ヒッピーと呼ばれ、偏見の眼で見られることも多かったが、彼らには工業化・産業化する社会に対する批判意識と、自然と人間の関係に対する洞察があった。この運動の中心地の一つが鹿児島であり、屋久島や諏訪瀬島を舞台とした運動の展開について紹介した。講座では、当時の映像や音楽なども紹介した。対象とした作家は、ジャック・ケルアック、ゲイリー・スナイダー、アレン・ギンズバーグ、ナナオサカキ、山尾三省などである。

第4回 楊 虹

日本語に入った『漢語』とその元の中国語との意味の対照や、中国に逆輸入された「和製漢語」及び新たに中国語に入り、中国語の新語・流行語となった日本語起源の表現を紹介し、日中両言語の交流の歴史をたどった。日中における漢字、漢語の往来は、お互いに新しい物、文化、思想等新しい世界をもたらしたことを解説し、日本語と中国語における同型語に見られた意味のずれや語の意味変化を、社会文化と関連づけて考察した。また、近年日本語起源の語が中国語に入り、中国語の新語・流行語となる現象を紹介し、近代化やグローバル化が進む中で日本と中国に共通してみられる社会問題等を解説した。

第5回 遠峯 伸一郎

日本語と英語における借用語（他言語から取り入れた語彙）を取り上げた。まず、講座の前半で、日本語と英語の語彙における借用語の位置づけ、系統関係について概説し、日英両言語ともに、政治的・文化的に大きな影響を与えた国の言語（英語の場合はフランス語・ラテン語、日本語の場合は中国語）からの借用語が極めて多いこと、類義語が語種によって階層を成していることに言及した。後半は日本語語彙の外来語に見られる様々な性質を、特に、促音化（例えば、happy と「ハッピー」、など）や超重音節の縮約（例えば、ground と「グラウンド」）など音韻の側面に注目して原語と比較しながら解説した。

第6回 小林 朋子

時代を超えてアメリカで読み継がれるマーク・トウェイン『ハックルベリー・フィンの冒けん』（1885年）とJ.D.サリンジャー『ライ麦畑でつかまえて』（1951年）は、どちらも少年を主人公として、一人称で語られる小説である。『ライ麦』の主人公ホールデンの語り口は、ハックのそれを彷彿とさせることはよく指摘されることだが、本講座ではそれぞれの作品の時代背景と重要な場面を解説し、両作品の主人公の語り口を味わいながら、二人が饒舌に語り続けることが、両作品に通底する大きなメッセージであることを確認した。最後に長田弘の詩集『詩ふたつ』から「けっしてことばにできない思いが、ここにあると指さすのが、ことばだ」という詩の一節を紹介した。

第7回 木戸 裕子

平安時代の和歌と漢詩の関係、そして近代以降の唱歌と平安時代の『古今和歌集』との関係について説明し、漢詩文が日本の文芸に大きな影響を及ぼしていることを考察した。前半では、白居易の漢詩が和歌に翻案されたこと、その和歌『句題和歌』が『源氏物語』に引用されていることを、後半では「早春譜」「夏は来ぬ」などの唱歌の歌詞が『古今和歌集』春の部の冒頭や夏の部の和歌の季節観を受け継いでいることを指摘した。現在の小学校では上記の唱歌を授業で習うことも少なくなっているが、伝統的な季節観について考えるには良い教材なのではないか。

第8回 ガルシア・アロヨ ホルヘ

スペイン語で「Nada」とは、無、空虚という意味である。ヘミングウェイは多くの作品、特にスペインを舞台にした作品において、実在的な空虚さを意味すること「nada」という概念を用いる。また、ヘミングウェイはあたかも「nada」という概念をスペインとスペインの文化に関連づけることを意図しているかのようである。そこで、本講座では、ヘミングウェイのスペイン的作品における象徴としての「nada」という概念の意味を分析し、スペイン文化の中で、特にその文学の中に「nada」という概念が登場する例を通して、スペイン文化における「nada」という概念の真の意味を明らかにする。

◇講座の最後にアンケート調査を実施し、29人か

ら回答が得られた。以下ではアンケート結果のまとめを記す。

1. 今回の講座を知ったのは

①短大のホームページ	3
②県短からのお知らせ	10
③ポスター	4
④知人から	6
⑤その他	6
無回答	0
2. 今回の講座は

①よかった	22
②ふつう	5
③よくなかった	0
3. 今回のテーマは

①よかった	20
②ふつう	6
③よくなかった	0
※ 無回答	3

4. 自由意見

- * 児童文学など、また、読んでみたいと思いました。
- * 少し難しいテーマもあったが（第8回）どのテーマも興味深かった。
- * ことばについて元々興味があったので、どの講義も興味深かったです。
- * ことばから世界の文学や文化について、学ぶことができ視野が広がりました。
- * 「ことば」の様々な側面、役割など専門的に狭く、しかし、深く研究した成果を学ぶことができた。
- * 今の日本のことばと昔の日本のことば、知っている中国のことば、英語、仏語とのつながり、なんとなくわかったようで、楽しかった。
- * ①方言の多様性は、まさに方言でしか表せない感じがあるとおもった。②言葉を通してイギリスの歴史を知ることができた。他の国に攻め入られることによって言語が変化しているのがわかった。③1960年後半物質文明に異を唱え自然とともにある行き方を目指したコミュニン「部族」自分の信念を貫いて最後まで自然とともに暮らしたのは驚きだ。④「漢語」と「中国語」の意味のずれが面白かった。特に「残留孤

児」という言葉。⑤「ハックルベリーフィンの冒険」と「ライ麦畑でつかまえて」の共通点、2作とも独自で主人公が少年であることは、面白かった。ハックでは黒人問題など、アメリカの抱える問題が書かれている。「ライ麦畑のキャッチャーになりたい」という主人公のセリフに身がつかまされる。⑦漢詩と和歌でじゃ、漢詩の中から日本人の気持ちに合うものを和歌に詠んだのが面白い。「夏は来ぬ」などの唱歌に、古今集が影響していたのも興味深い。⑧NADAとDUENDEというスペイン特有の言葉が面白い。スペイン文化をもっとしりたいと思う。

- * 毎回教えてくださる先生は違いますが、当然のことながら、テーマの通り繋がりが感じられて良かったです。小亀先生の方言のお話とても良かったです。今回は「壁の中の妖精」の世界を思い出しました。スペインの歴史を学んだことがなく、知る事ができて良かったです。言葉と文化、政治、マスメディア、色々な関連つながりを感じました。正直読んだことがなくこれからです。
- * まず、テーマから興味が感じられ、受講につながった。
- * ことばの奥深さに改めて感じ、紹介の本など読みなおします。
- * 小グループになって話し合う時間があっても良かったかな…なんて思います。（参加型）
- * 「ことば」で色々繋がりがあり、いろんな世界の文学、言語、文化を知る事ができました。



2023年度伊敷公民館講座

商経学科 岡村雄輝

本年度の伊敷公民館講座生き生きシニア大学は、本学の文学科、生活科学科、商経学科の教員が講師を担当し、10月11日から11月22日まで、全7回実施された。受講登録者数39名、延べ受講者数186名であった。受講者のアンケートからは、「初めての講座受講で、緊張しながらの参加でしたが、先生の話も分かりやすく楽しく2時間が過ぎた」「県短の先生方による多岐にわたる専門的な話を聴けてよかった」「やはりしっかりとした研究にもとづく話は深みがある」といった公表をいただいた。以下では、講座各回の担当者とテーマ（表2）、各担当者による講座概要ならびにコメントを掲載する。

表2 各講座の担当者とテーマ

回	実施日	担当者（所属）	テーマ
1	10/11	坂上ちえ子（生活科学科）	私たちの消費者問題－近年の消費者被害例も含めて
2	10/18	與儀幸朝（生活科学科）	子どもの体力の時代差と成長の変化
3	10/25	田口康明（商経学科）	変わる学校教育 この100年で何かおきたか
4	11/ 1	北一浩（生活科学科）	同じ？違う？デザインとアートの話
5	11/ 8	轟義昭（文学科）	百田尚樹の小説と運命の女神
6	11/15	木戸裕子（文学科）	『伊勢物語』一五十段― 世のはかなさを歌に詠む
7	11/22	船津潤（商経学科）	企業と政府

第1回 坂上 ちえ子

【概要】

まずは、4つの構造的消費者問題を紹介した。そのうえで、問題解決のためには、常に消費に関心を持ち、消費者自身が自立して権利を行使することが必要であることを伝えた。とくに、トラブルが目立つ契約に関する事柄を掘り下げ、契約問題の内容や特定商取引法、多様な解決手法を解説した。最後に、近年の多岐にわたる消費者問題と被害を示し、身近な問題として捉えていただいた。

【コメント】

受講者の皆様には、大変意欲的に参加していただいた。終了後、廊下でお会いした方から、いくつかの質問をお聞きし、一緒に解決方法を考えるという貴重な機会を得ることができた。

第2回 與儀幸朝

【概要】

児童・生徒を対象とした体力・運動能力調査（スポーツ庁：1964年～2021年）の結果を活用して、体力の時代差を示したうえで経年変化の要因について解説した。また、学校保険統計調査（文部科学省：1946年～2020年）の結果を活用した児童生徒の成長の経年変化についても解説した。

【コメント】

出席された方々が積極的に意見を述べたり、質問をしてくださったので相互に考え方を共有しながら楽しく展開することができました。今と昔の環境の変化（生活環境・社会環境）が子どもの体力・運動能力に影響を与えることを改めて実感しました。ありがとうございました。

第3回 田口康明

【概要】

学校教育の急速なICT化を進めるGIGAスクール構想など、今日、学校教育は大きく変わりつつある。しかし、変わってきたのは今に始まったことではない。明治維新を起点とする日本近代化の中で、学校教育は役割と性格を大きく変容させてきた。その変化について、検討する。

【コメント】

司馬遼太郎『坂上の雲』を利用したところ、多くの参加者が既知の内容で、身近に感じてもらえた。

第4回 北 一浩

【概要】

身近にあるにも関わらず、普段あまり考えることのないデザインとアートについて、改めて考えるきっかけとなるよう心がけた。デザインとは？アートとは？それぞれの解説を通して、最終的にデザインとアートの違いを自然と理解できるようなアプローチを行なった。

【コメント】

講座の内容が受講者の年代の方々には、興味の対象になるのかという懸念もあったが、杞憂に終わり大変熱心に受講いただいた。休憩の時間にも質疑に来る方がいたり、質疑応答の際にも質疑から議論へと発展する白熱ぶりであった。私自身にとっても有意義な講義を行うことができたと思う。

第5回 轟 義昭

【概要】

百田尚樹氏が『フォルトゥナの瞳』（2014年）のなかで描いたフォルトゥナ、つまり「ローマ神話に出てくる球に乗った運命の女神」及び「運命の車輪」について専門家の立場から解説した。さらに、百田氏のデビュー作『永遠の0』（2006年）から13作品を時系列に並べると、「運命の女神」という言葉を含めた表現が多々見られ、百田氏は「運命の女神」をこよなく愛した作家と言えるかもしれないと論じた。

【コメント】

日本文学のなかに顔を出した異文化の存在「運命の女神」を解釈する行為は難しい。そのようななかで、受講者からの射た質問があったことに安堵した。

第6回 木戸 裕子

【概要】

『伊勢物語』五十段は男女が互いに相手の不誠実を責める歌を詠み合うという章段だが、そこで詠まれている和歌の出典を指摘し、『伊勢物語』中では言葉遊びのように扱われている大仰で非現実的な比喩が、詠まれた状況によっては深い悲しみを慰めるために使われているなど、同じ和歌の表現でも、場面場面でさまざまに解釈されることを説明した。

【コメント】

事情により本来の担当者のピンチヒッターとして講演したが、皆さん熱心に聞いてくださった。感謝します。

第7回 船津潤

【概要】

市場というメカニズムを踏まえて、企業の自由な活動がどうして重要なのかを押さえた上で、市場の問題点や政府の役割などについてお話ししました。その上で、企業と政府の関係が今変化していることを解説し、その問題点を提起しました。なお、講座後、閉会式が行われ、受講者の皆様に感謝の意を込めて、講座の意義等についてお話しさせていただきました。

【コメント】

受講者の皆さんがとても熱心に受講してくださったおかげで、充実した内容になったと思います。大変やりがいがありました。

2023年度鹿児島県立短期大学

奄美サテライト講座

商経学科 福田 忠弘

2023年度は、奄美群島が日本に復帰してから節目の70周年である。今年度は、本学の附属図書館と合同で「奄美群島日本復帰70周年記念 特別講演会 未来に繋げる奄美の文化」という特別講演会を行った。

今年度は、本学の附属図書館（県短会場）、沖永良部の和泊町役場ゆいホール（和泊会場）、奄美大島の県立奄美図書館（奄美会場）の3個所をズームでつないで行うという、初の試みとなった。

11月3日に第1講演として、和泊会場から元本学商経学科教授の西村富明氏による「沖永良部・与論の二島分離反対で復帰運動を再考する」を行い、県短会場と奄美会場にもつないだ。3日の第2講演として、奄美会場から本学生活科学科准教授の北一浩氏および金井工芸の金井志人氏による「大島紬を紡いでいく」を行い、県短会場と和泊会場にも映像を送った。

11月12日に第3講演として、奄美会場から国文学研究資料館准教授の多田蔵人氏による「島尾敏雄文学と「本」～小説のなかの書物～」を行い、県短会場ともつないだ（この日は和泊会場はなし）。

各回各会場とも盛況で、のべ参加人数は217名にも登った。

11月3日（金）開催

時間	講師名（所属）	テーマ	会場
13：00～14：00	西村富明（元本学商経学科教授）	沖永良部・与論の二島分離反対で復帰運動を再考する	和泊町役場ゆいホール
14：30～16：00	金井志人（金井工芸） 北一浩（本学生活科学科准教授）	大島紬を紡いでいく	県立奄美図書館

11月12日（日）開催

時間	講師名（所属）	テーマ	会場
14：00～15：30	多田蔵人（国文学研究資料館准教授）	島尾敏雄文学と「本」～小説のなかの書物～	県立奄美図書館

◇講座の最後にアンケート調査を実施し、96人から回答が得られた。以下ではアンケート結果のまとめを記す。

- | | |
|--------------------|---|
| 1. 今回の講座を知ったのは | 3. 今回のテーマは |
| ①短大のホームページ …………… 9 | ①よかった …………… 72 |
| ②県短からのお知らせ …………… 7 | ②ふつう …………… 12 |
| ③ポスター …………… 18 | ③よくなかった …………… 0 |
| ④知人から …………… 33 | |
| ⑤その他 …………… 29 | 4. 自由意見 |
| 2. 今回の講座は | * 泉芳朗の日記などをもとに、復帰運動の歴史を改めて知る機会になって良かった。 |
| ①よかった …………… 72 | * 復帰運動の真実を知れて良かった。やはり徳之島パワーはすごい。 |
| ②ふつう …………… 12 | * 3会場つないでのリモート開催は新鮮で面白く、3会場の雰囲気も異なるのかと想像しつつ楽しく拝聴した。 |
| ③よくなかった …………… 0 | * 復帰運動の歴史、大島紬の技術が工芸品として生かされていることを知ることができた。 |

- * 皆さん熱心で、本からの情報よりも濃い内容ですばらしい。
- * 今の日本のことばと昔の日本のことば、知っている中国のことば、英語、仏語とのつながり、なんとなくわかったようで、楽しかった。
- * 呉服離れを感じ、紬を全処分してしまったが、断捨離の方法も考えなくてはと感じた。
- * 具体的に詳しく二島分離反対で復帰運動したことがよくわかった。
- * 「染色」の工程をひもといて、木を染めたり作品として鑑賞できたり、面白さを知ることができた。ハードルの高い高級品の大島紬も、視点を変えると現代的で関心を持った。
- * 戦後の奄美の日本復帰に向けた動きをすることができた。おがみ山山頂の記念碑を理解できた。大島紬も分業の部分を展開していくことで、これからも稼ぐ産業、可能性を感じる産業と思った。
- * 鹿児島県にしながら奄美の歴史を学ぶこと自体おかしいですよね。とても勉強になった。子どもたちを知って欲しい。鹿児島の人々が奄美の事をどう理解していくかとても大切なことだと思う。
- * 今、奄美ブームだと思う。紬のテーマは堅苦

- しくなくて、聞きやすかった。
- * 奄美にしながら島尾さんの小説に触れることがあまりなく、イメージを膨らませる機会もなかったの、いい一日となりました。島尾さんの小説・書物にふれてみたいと思いました。
- * 大変難しい本だなと思っていたが、少し「死の棘」が理解できたように思います。
- * 難しかった。まだまだ島尾文学の読みが足りない反省。かなり本を読んでいるつもりでいたのが恥ずかしい。
- * 「島尾の命日」に合わせて、島尾小説の研究者の講演でよかった。「死の棘」の読み方、味わい方が島尾の人生や生き方、考え方（小説家としての）がよく分かった。
- * 沖永良部の先輩が頑張って、色々な運動をして、復帰できたことを知れてよかった。
- * 沖永良部の先輩が頑張って、色々な運動をして、復帰できたことを知れてよかった。
- * 講演を聞かなければ、深く考える機会もなく流してしまっていた。講演①では、各町誌を見てみようと思ひ、講演②では大島紡ぐと伝統工芸について地元の作家のことももっと知りたくなった。

令和5年度 鹿児島県立短期大学・鹿児島県立奄美図書館 共同企画
奄美群島日本復帰70周年記念 特別講演会

未来に繋げる奄美の文化

☆奄美会場(県立奄美図書館)
☆県短会場(県立短大附属図書館)
☆和泊会場(和泊町役場 ゆいホール)

3会場をオンラインで
結び、3回の講演を
おこないます
(和泊会場は11月3日のみ)

参加費は
無料です

11月3日
(金・祝)
13:00~14:00
講演①沖永良部・与論の
二島分離反対で
復帰運動を再考する
西村富明(元県立短大教授)
県短・奄美会場はオンライン中継

14:30~16:00
講演②大島紬を紡いでいく
金井志人(金井工業)
北一倍(県立短大大学教授)
奄美会場にて講演、県短・和泊会場はオンライン中継

11月12日(日) 14:00~15:30
講演③島尾敏雄の文学(仮)
多田蔵人(国文学研究資料館教授)
奄美会場にて講演、県短会場はオンライン中継

【参加申し込み】はがき、ファクス、電子メールのいずれかで、以下の内容をお送りください。
① 参加会場(奄美、県短、和泊)
② 参加希望講演(①-③の複数回参加可、ただし、③は県短会場、奄美会場のみ)
③ 氏名(復姓で参加の場合は、全員の氏名前)
④ 代表者の住所と電話番号

☆県短会場、和泊会場での参加申し込み:鹿児島県立短期大学 附属図書館 奄美特別講演会担当
〒990-0005 鹿児島市下伊敷1-52-1 ファックス:099-303-4473 メール:kyu@kyu-u.ac.jp
(電話でのお問い合わせは:099-303-4475(内線501)まで)

☆奄美会場での参加申し込み:鹿児島県立奄美図書館 ***担当

共催:和泊町教育委員会、知名町教育委員会、鹿児島県立大島支庁沖永良部事務所
後援:奄美市教育委員会 協力:鹿児島県大島支庁

2023年度プロジェクト研究

<共同研究プロジェクト>

新型コロナ支援融資等を受けた 鹿児島県内中小企業の調査 商経学科 宗田 健一

本研究の目的は、コロナ禍の中小企業の資金繰り支援における会計情報の活用状況を調査・分析することにより、アフターコロナにおけるデフォルト（資金繰り支援を受けた中小企業が債務不履行・貸倒れに陥ること）、デフォルトリスクを指摘し、デフォルトの軽減・回避について会計面から検討することであった。

3年計画の3年目は、税理士における中小企業支援の実態解明に焦点を絞り、調査・研究を行った。具体的には、TKC九州会、静岡会、兵庫会、神奈川会の税理士を対象として、「ポストコロナ期における資金調達ないし借入返済を行う中小企業に対する税理士業務の実態調査」を実施した。

この調査は、コロナ禍、ポストコロナ期における中小企業を支援する税理士の実態・意識調査を行うものであった。内容は、重大なインシデント（コロナ禍）が発生し、金融・実体経済が危機的状況を迎えた中で、中小企業が直面した課題と当該課題に税理士がどのように対応していたのかを分析し、ポストコロナにおける借入金の返済課題、税理士による中小企業支援の対応・課題解決策について考察するためのアンケート調査である。

当該結果に基づき、中小企業における資金返済の現状、返済可能性などについて税理士の支援実態や資金調達に対する意識を明らかにし、融資制度設計における会計情報活用の必要性、キャッシュ・フロー情報の重要性、経営者や会社の定性要因を考慮する必要性を指摘した。

3年目は、研究成果の一部として、以下の内容で学会報告を行った。同報告については、学会誌等に投稿を予定している。

櫛部幸子・宗田健一「デフォルトリスクを回避するために中小企業会計が果たす役割 ―コロナ禍・アフターコロナにおける税理士業務実態調査アンケートの結果をもとに―」、中小企業会計学会第11回全国大会自由論題報告、専修大学（対面開催）、2023年11月12日。

なお、本研究は、櫛部幸子氏（大阪学院大学）との共同研究である。

<個人プロジェクト>

宇宙ゴミ排出権取引会計の基礎研究 商経学科 宗田 健一

近年、宇宙空間の商業利用が活発になってきている。宇宙の商業化に伴い、宇宙条約や宇宙損害責任条約などを基礎として、持続可能な宇宙活動や宇宙開発などについて、多くの研究成果が公表されつつある。宇宙にまつわる検討課題は数多くあるものの、本研究では、とくに宇宙ゴミ（スペースデブリ）の問題に対象を絞り、会計学の視点から考察するものである。

JAXAによると、宇宙の商業化と同時に、スペースデブリは、年々増加の一途をたどっており、将来、人類の宇宙活動の妨げになることが予想されている。持続可能な宇宙活動・宇宙開発はもちろんのこと、地球上に落下してくるスペースデブリの問題を視野に入れると、国家や民間企業によるロケット発射や宇宙開発については、さらなる規制の対象となることが考えられる。なお、民間企業によるスペースデブリ除去サービスも提供されている。

第3回気候変動枠組条約締約国会議（地球温暖化防止京都会議、COP3）で採択された、気候変動枠組条約に関する議定書（いわゆる京都議定書）は、その後、各国の温室効果ガス（特に二酸化炭素：CO2）に関する様々な規制の基礎となったことが知られている。特に会計学の領域では、CO2排出権取引が会計上の考察対象となり、研究が進められていることは記憶に新しい。このように法域を超えた規制と会計の関係を考えると、スペースデブリについても、会計学の視点から考察する余地があると考えられる。

本研究は3年計画の2年目である。CO2の排出権取引と同じように、将来的には、宇宙空間でスペースデブリを排出する権利そのものが会計上での議論の対象となる可能性を視野に入れ、宇宙に関連する諸規制について会計学の視点から文献、資料を用いて、基礎的研究を行っていきたい。

<個人プロジェクト>

北海道並びに全国における障害児の高校進学状況 および高校における教育内容 商経学科 田口 康明

障害児の高校進学については、「障害児である」

ことを前提に受験することはあっても、「障害がある」ことが合否判定の根拠にされることはほとんどない。特に不合格の場合、「校長の総合的判断」（例えば「高校からは『受験生がその高校にふさわしいかも含め合否が総合的に判断される』」、熊本県の事例）とされ、「障害」が理由であるという直接的な表明はない。従って、「障害を理由とする不合格」を数値的にまた統計的に実証することは不可能に近い。他方で、公立高校受験（検）のうち、いわゆる「定員内不合格」のほとんどは障害児の受験によるものであることが、各地の高校受験の取り組みにおいて経験的に理解されている。

こうした状況にあって、各種の運動体が文科省に対して、定員内不合格の全国実態調査を求めてきた。その成果であるかどうかは不明であるが、文科省は2022年12月27日に公表した「令和4年度の公立高等学校入学者選抜の改善等に関する状況調査の結果」の中で「受験生を不合格にする公立高校の『定員内不合格』に関する調査」の結果を公表した。調査結果によれば、35都府県で延べ1631人の定員内不合格者がいることがわかった。そのうち、延べ505人は最終日程の入試で不合格となっている。6県（青森県、山形県、福島県、群馬県、佐賀県、沖縄県）は「把握していない」と回答し、定員内不合格者が5人以下だった6道府県（北海道、福井県、京都府、兵庫県、和歌山県、熊本県）は個人の特定を避けるため、人数を公開していない。

都道府県別に定員内不合格者数を見ると、多い順に高知県（182人）、福岡県（148人）、山口県（131人）、宮城県（108人）、広島県（95人）となった。ちなみに鹿児島県は63人である。同調査では、各都道府県の定員内不合格に対する取組についても尋ねており、定員内不合格がゼロだった埼玉県は、「志願者数が定員内であって不合格者を出す可能性がある高等学校長は県教育委員会と入学許可候補者の発表前に事前協議を行う」としている。また北海道は不合格者数は5人以下のため、人数は未公表、学校数は1と発表している。

このなか、人工呼吸器で生活する北海道名寄市の中学3年生が、23年春、地元公立高校への進学を希望し実現した。「医療的ケア児」の普通高校進学は道内では、おそらく前例がなく、支援団体は事前に道教育委員会に配慮を要請し、交渉を重ねた結果の帰結であった。

こうした全国と北海道の状況について研究した。詳細は、別途公表する予定である。

<個人プロジェクト>

奄美復帰70周年に関する調査 商経学科 福田 忠弘

今年度は、奄美群島が本土に復帰してからちょうど70年目の節目の年にあたる。本学でも、地域研究所の奄美サテライト講座と附属図書館の金曜講演会が合同で、特別講演会『未来に繋げる奄美の文化』を11月3日、11月12日に開催した。この講演会に合わせて、奄美本土復帰70周年に関する資料の収集を行った。

奄美大島では、楠田書店が発行した『奄美のガンジー 泉芳朗の歩んだ道』などの資料を収集した。この資料は奄美のガンジーと言われ、奄美の本土復帰の指導者として活躍した泉芳朗が旧名瀬市長時代の日記や、未発表の小説、詩などが収録されている。特に旧名瀬市長時代の日記は非常に重要である。名瀬市長の元に、中央省庁から奄美復帰についてのどのような情報もたらされていたかが記録されているからである。現在でも論争がある、沖永良部と与論の二島分離論についての当時の記録が残されている。

また奄美市立奄美博物館では、復帰運動当時の実際の署名簿などの調査を行った。当時の住民の9割以上が参加したと言われる署名運動がどのように展開されたのかを知る事ができた。

こうした調査で得られた知見については、11月3日に行われた特別講演会で報告を行った。

<個人プロジェクト>

奄美大島・泥染めによる美術作品の制作 生活科学科 北 一浩

過去数年にわたり自身の制作活動を奄美大島に行っている。これまでは泥染めによる制作技法を確立させるため、大島紬における泥染めの工程を担っている金井工芸の金井志人氏のサポート受けながら単独で制作を行ってきた。その結果として、国内外で複数のアートコンペで入選を果たし相応の結果を得てきた。

今年度は、これまで取り組んでこなかった他者との協業を行った。国指定重要無形文化財、経済産業大臣指定伝統的工芸品でもある久留米餅の織元より独立し活動している久留米餅研究舎との協

業である。同社は、大島紬と同様に久留米絣も需要が激減している中、『伝統工芸とファッションの融合』を掲げアパレルを提案している。日本の着物地（幅約38cmの生地）を使用した洋服『洋服のテクノロジー（バイヤス使い、曲線、立体的な造形）を取り入れ、そこに日本の着物の普遍的な解釈（直線、平面的）を意識的に織り交ぜた

服』を創っている。その中でも代表的なアイテムである Departure Pants（着物幅38cmの生地のバイヤス取りで作られたジーンズ）に、泥染めを行うというものである。プロトタイプとなる作品を完成させたところだが、今後もさらなる展開を検討している。



Departure Pants of Dorozome #1 / 久留米絣研究所との協業作品

鹿児島県立短期大学教員 研究・社会活動報告一覧
2023年1月～2023年12月

飯干 明 学長

学術論文

1. 「ゴールボールを取り入れた体育授業の検討（第2報）：複数回の授業実践から得られた有効性と課題点」, 共著（濱中 良, 宇都直士, 柴山 慧, 飯干 明, 他全7名）, 『鹿屋体育大学学術研究紀要』, 第61号, 2023年9月, pp.31-44.

学会発表

1. 「高等専門学校におけるゴールボールを取り入れた体育授業プログラムの検討：新たな身体知への気づきと障害観の変化」, 共同（濱中 良, 飯干 明, 金高宏文, 森 司朗, 井福裕俊）, 第73回日本体育・スポーツ・健康学会学校保健体育研究部会, 於：同志社大学, 2023年8月30日

学会活動

- ・日本体育・スポーツ・健康学会, 1976年4月～現在
- ・日本体力医学会, 1978年3月～現在
- ・九州体育・スポーツ学会, 1979年9月～現在
- ・日本スポーツ運動学会, 1988年4月～現在
- ・日本発育発達学会, 2002年10月～現在

社会還元

1. 講師：「県職員のための健康づくり」, 令和5年度鹿児島県心と身体の健康づくり教室, 於：鹿児島県庁, 2023年8月2日
2. 講師：「しなやかに、たくましく生きる－マインドセットとレジリエンスに着目して－」, 令和5年度公益財団法人鹿児島県栄養士会リレー研修会Part I, 特別講演Ⅱ, 於：鹿児島県栄養士会館+リモート, 2023年8月19日

社会活動

1. 燃ゆる感動かごしま国体・かごしま大会総務専門委員会副委員長, 2013年～現在
2. 燃ゆる感動かごしま国体・かごしま大会鹿児島市実行委員会参与, 2022年～現在
3. 全国栄養士養成施設協会理事, 2022年～現在
4. 鹿児島ユネスコ協会顧問, 2022年～現在
5. 鹿児島県育英財団評議員, 2022年～現在
6. 壽崎育英財団評議員, 2023年～現在

文学科

日本語日本文学専攻

木戸 裕子 教授

学会活動

- ・和漢比較文学会1986年5月～現在。同常任理事
2011年10月～現在。同西部例会委員会委員長
2021年10月～現在。同編集委員会委員 2021年10月～現在。
- ・中古文学会, 1986年5月～現在。
- ・説話文学会, 2005年6月～現在。
- ・西日本国語国文学会, 1988年9月～現在。

社会還元

1. 講師：「栄花物語を読む」, 金曜会（読書会）, 於：鹿児島青年会館帥舎, 2022年9月～現在
2. 講師：「朧月夜（おぼろづきよ）に似るものぞなき 一漢詩と和歌の間」, 鹿児島県立短期大学公開講座, 於：鹿児島県立短期大学, 2023年7月1日
3. 講師：「『伊勢物語』五十段－あだくらべ－」, 鹿児島読書サークル, 於：鹿児島市教育総合センター, 2023年7月14日
4. 講師：「『伊勢物語』－五十段－世のはかなさを歌に詠む」, 伊敷公民館講座, 於：伊敷公民館, 2023年11月15日

社会活動

1. 2021年11月～現在 鹿児島市文化財審議会委員

小亀 拓也 講師

学会活動

- ・日本語学会, 2019年5月～
- ・日本語文法学会, 2019年7月～
- ・日本言語学会, 2019年7月～
- ・西日本国語国文学会, 2022年8月～
- ・表現学会, 2023年3月～

社会還元

1. 講師：「[ことば]と体験との関係を方言を通して見る」, 鹿児島県立短期大学公開講座, 於：鹿児島県立短期大学, 2023年5月20日
2. 講師：「平安時代における時間表現」, 鹿児島

読書サークル，於：鹿児島市教育総合センター，2023年9月8日

竹本 寛秋 教授

学術論文

1. 「『土』の思想をめぐって ―山村暮鳥と山尾三省の比較から―」，単著，『雲』，第28号，2023年9月，pp.2-6.
2. 「市島三千雄と無題という方法」，単著，『詩誌「新年」への想い』，第11号，2023年11月，pp.2-5.

書評

1. 「秋元裕子著『瀧口修造研究 〈影像人間〉の系譜』」，単著，『比較文学』，第65号，2022年度，pp.78-81.

報告

1. 「『ヒッピーという生き方 部族降臨』展に寄せて」，単著，『山尾三省記念会 事務局通信』，第15号，2023年7月，p.3

学会発表（口頭）

1. 「これからの「国語」をめぐる文学と教育」，シンポジウム（パネリスト／跡上史郎，小川竜紀，竹本寛秋，コーディネーター／久保田裕子），日本近代文学会九州支部秋季大会，熊本工業専門学校八代キャンパス，2023年11月18日
2. 「萩原朔太郎と出会う回路―教科書の内／外と朔太郎」，単独，第53回萩原朔太郎研究会研究例会，前橋文学館，2023年12月3日

その他（研究助成）

1. 「生態系と共同体をめぐる思想と表現に関する研究―山尾三省を中心として」，科学研究補助金，基盤研究C（研究代表者），2022～2027年度

学会活動

- ・北大国語国文学会，1996年4月～，評議員
- ・日本近代文学会，1996年4月～，日本近代文学会九州支部運営委員
- ・日本文学協会，1996年4月～
- ・西日本国語国文学会，2016年4月～，支部委員
- ・日本比較文学会，2009年4月～
- ・昭和文学会，1996年4月～
- ・暮鳥会，2007年4月～，幹事
- ・山尾三省記念会，2022年4月～

社会還元

1. 講師：「島から世界へ，つながる詩のことば

カウンターカルチャーと鹿児島の島々」，鹿児島県立短期大学公開講座，於：鹿児島県立短期大学，2023年6月3日

2. 講師：「ななおさかきをめぐって」，鹿児島読書サークル，於：鹿児島市教育総合センター，2023年8月4日
3. 講師：「出発期の山尾三省」，山尾三省記念会，於：白川山やまびこ館，2023年8月28日
4. 出張講義講師：「小説を直筆原稿で読んでみよう」，於：鹿児島県立伊集院高校，2023年10月26日
5. 出張講義講師：「大学で学ぶ文学」，於：鹿児島県立出水高校，2023年10月27日

社会活動

1. 2023年8月1日，全国高等学校総合文化祭2023かごしま総文弁論部門審査員，於：サンエールかごしま
2. 2023年10月25日，鹿児島県高等学校文化連盟弁論大会審査員，於：サンエールかごしま
3. 2023年11月23日，鹿児島県高等学校弁論大会審査委員長，於：鹿児島県教職員互助組合会館

土肥 克己 教授

社会活動

1. 2023年1月28日，「第28回外国人による日本語スピーチコンテスト」本選審査員，於：かごしま県民交流センター

楊 虹 教授

学術論文

1. 「LINEチャットの会話における感動詞の分析―日本語母語場面と日韓接触場面の比較を通して―」，楊虹・倉田芳弥，『語用論研究』24，pp.79-98.
2. 「LINEチャットの会話における感動詞「あ」の分析」，単著，『鹿児島県立短期大学紀要人文・社会科学篇』73，pp.69-85.

学会発表（口頭）

1. 「SNS接触場面のチャットの会話における感動詞の分析―日中と日韓の比較を通して―」第8回感動詞研究会，オンライン開催，2023年1月9日
2. 「中国語Wechatの会話における感情表出―相互行為からとらえた文字・表記」第40回ひと・ことばフォーラム，オンライン開催，

2023年11月4日

学会活動

- ・日本語教育学会, 国際連携委員
- ・社会言語科学会, 大会企画委員

社会還元

1. 講師:「ことばの対照から見えてくるもの」, 鹿児島県立短期大学公開講座, 於:鹿児島県立短期大学, 2023年6月10日

英語英文学専攻

ガルシア・アロヨ ホルヘ 准教授

学術論文

1. 「The Quest for Truth in Spain:Lights and Shadows of Hemingway's "Spanish"Works」, 単著, 『鹿児島県立短期大学紀要人文・社会科学篇』, 第74号, 2023年12月, pp.19-28.

学会活動

- ・日本アメリカ文学会, 2015年~, 会員

社会還元

1. 講師:「アーネスト・ヘミングウェイの作品における“nada”という言葉の象徴と, スペインの文化におけるその真の意味」, 鹿児島県立短期大学公開講座, 於:鹿児島県立短期大学, 2023年7月8日
2. 出張講義講師:「アメリカ理想における大衆文化キャラクター」, 於:鹿児島県立大口高等学校, 2023年11月14日
3. 講師:「国境を超える文学」, 大学地域コンソーシアム鹿児島合同進学ガイダンス, 於:鹿児島大学, 2023年12月2日

小林 朋子 教授

学会発表(口頭)

1. 「アフェクト経済のネットワークを創出するー『タール・ベイビー』におけるホームとしての身体ー」, 単独, 九州アメリカ文学会第68回大会, 於鹿児島大学郡元キャンパス, 2023年5月13日

学会活動

- ・日本アメリカ文学会, 2006年~, 会員
- ・日本英文学会, 2006年~, 会員(2023年4月~九州支部事務局書記)
- ・鹿児島英語英文学会, 2006年~, 会員
- ・多民族研究学会, 2011年~, 会員(2019年8月

~大会運営委員)

- ・原爆文学研究会, 2019年~2022年, 会員

社会還元

1. 講師:「トニ・モリスン『青い眼がほしい』」, 鹿児島読書サークル, 於:鹿児島市教育総合センター, 2023年3月10日
2. 講師:「少年は『ことば』で世界と繋がろうとするー『ハックルベリー・フィンの冒険』と『ライ麦畑でつかまえて』」, 鹿児島県立短期大学公開講座, 於:鹿児島県立短期大学, 2023年6月24日

社会活動

1. 2023年度~, 玉江小学校学校運営協議会委員

遠峯 伸一郎 教授

学会活動

- ・日本英語学会, 1995年~, 会員
- ・近代英語協会, 1997年~, 会員

社会還元

1. 講師:「ことばを繋ぐ言葉 借用された語彙から見る日本語と英語の姿」, 鹿児島県立短期大学公開講座, 於:鹿児島県立短期大学, 2023年6月17日

轟 義昭 教授

学術論文

1. 「Enchanted by Miniatures of Goddess Fortune in the Roman de la Rose Manuscripts:Part4」, 単著, 『研究年報』(鹿児島県立短期大学地域研究所), 第54号, 2023年3月, pp. 1-8.
2. 「百田尚樹の小説と運命の女神」, 単著, 『研究年報』(鹿児島県立短期大学地域研究所), 第54号, 2023年3月, pp. 9-27.

社会還元

1. 講師:「百田尚樹の小説と運命の女神」, 伊敷公民館講座, 於:伊敷公民館, 2023年11月8日

米村 大輔 助教

学術論文

1. 「WCFにおける修正タスクが正確性に与える影響ー学習者の視点からー」, 単著, 『中部地区英語教育学会紀要』, 第52号, 2023年1月, pp.101-108.

学会発表(口頭)

1. 「直接フィードバックにおける修正タスクが

正確性に与える影響—間接フィードバックと比較しながら—, 単独, 第52回中部地区英語教育学会岐阜大会, オンライン開催, 2023年6月24日

2. 「タブレットPCを使用した『主体的・対話的で深い学び』の視点からの小・中学校の英語教育方法論」, 共同, (高橋美由紀, 米村大輔, 森直樹, 中川右也), 第52回中部地区英語教育学会岐阜大会, オンライン開催, 2023年6月25日

学会活動

- ・中部地区英語教育学会, 2016年4月～
- ・全国英語教育学会, 2016年4月～
- ・NPO The Japan Association for Language Teaching, 2016年4月～

社会還元

1. 講師:「ことばは海を越え, 時を越え一言で紡ぐイギリスとアイルランドの物語—」, 鹿児島県立短期大学公開講座, 於: 鹿児島県立短期大学, 2023年5月27日

生活科学科

食物栄養専攻

有村 恵美 助教

学術論文

1. 「哺乳びん及び乳首・キャップの滅菌方法の違いによる比較」, 共著, (○中熊美和, 有村恵美), 「鹿児島県立短期大学研究年報2022」, 2023年3月, pp.49-55
2. 「コロナ禍における栄養士養成課程の「校外実習」(給食の運営)についての検討」, 共著, (○有村恵美, 木下朋美), 「食生活研究」, 2023年5月, pp.207-217 (査読有)
3. 「Acute repeated cage exchange stress modifies urinary stress and plasma metabolic profiles in male mice」, 共著, (○Sayuri Fushuku, Miha ru Ushikai, Emi Arimura, Yuga Komaki, Masahisa Horiuchi), 「PLOS ONE」, 2023年10月, 18 (10):e0292649 (査読有)

資料

1. 「素材の異なるまな板における二次汚染・三次汚染の影響」, 共著, (○中熊美和, 有村恵美), 「日本食生活学会誌」, 2023年6月, 34 (1), pp.25-29. (査読有)

学会発表

1. 「糖尿病腎症・糖尿病網膜症発症に関連する栄養因子の検討」, 共同, (○有村恵美, 丸口由紀子, 中尾矢央子, 四枝皓二, 加治屋昌子, 西尾善彦, 堀内正久), 第66回日本糖尿病学会年次学術集会, 於: かがしま県民交流センター, 2023年5月12日, 第66回日本糖尿病学会年次学術集会プログラム集, p134

その他(研究助成等)

1. 研究代表, 科学研究費基盤研究(C)日本学術振興会「鹿児島市CKD予防ネットワークを活用した糖尿病腎症・網膜症栄養関連因子の検討」, 2018年4月～2024年3月
2. 共同研究, 日本腎栄養代謝研究会臨床研究「慢性腎臓病患者のたんぱく質制限食が腎機能低下抑制に及ぼす効果についての多施設研究」, 2018年9月～
3. 垂水元気プロジェクト調査チーム, 2021年～

学会活動

- ・日本病態栄養学会, 2002年6月～, 代議員(2019年4月～), 学術評議員(2020年1月～)
- ・日本糖尿病・妊娠学会, 2004年12月～
- ・日本腎臓学会, 2006年9月～
- ・日本糖尿病学会, 2007年5月～
- ・日本衛生学会, 2009年12月～, 学会準備運営委員(2022年7月～), 査読協力(2023年3月～), 優秀演題賞選考委員(2023年11月～)
- ・日本糖尿病性腎症研究会, 2009年12月～
- ・日本CKDチーム医療研究会, 2010年10月～, 幹事(2011年10月～)
- ・日本糖尿病合併症学会, 2012年9月～
- ・日本産業衛生学会, 2014年12月～
- ・日本腎栄養代謝研究会, 2015年7月～, 幹事(2017年7月～2021年6月, 2023年7月～), 監事(2021年7月～2023年6月)

社会還元

1. 指導者:「栄養食事指導」, 於: 上ノ町・加治屋クリニック, 2023年1～12月
2. 学生ポスター掲載支援: 掲載計画「さつまビタミンロード」, 於: 鹿児島市HP, 2023年1月～
3. 座長(一般演題):「第26回日本病態栄養学会年次学術集会(症例報告・糖尿病)」, 於: 国立京都国際会館, 2023年1月13日
4. レシピ掲載:「減塩で健康寿命Up!!!～カリウムをたっぷり摂って, 減塩を応援しよう

～」, 鹿児島県栄養士会管理栄養士クッキング講座, 於: 鹿児島県栄養士会ホームページ, 2023年1月18日

5. 企画運営・司会: 「2023年度日本病態栄養学会セミナー in Kagoshima」, 於: 鹿児島県立短期大学, 2023年2月26日
6. 世界腎臓デー in かがしま イベント協力, 於: 天文館通り, 2023年3月9日
7. 指導者: 「歯の衛生週間」, 於: 山形屋, 2023年6月4日
8. 講師: 「栄養管理 (小児疾患)」, 2023年度栄養教諭ステップアップ研修 (5年経験者研修), 於: 鹿児島県総合教育センター, 2023年7月4日
9. 講師: 「食のパワー～楽しく美味しく食育～」, 2023年度研修 (5年経験者研修), 於: 若葉幼稚園 (現地開催・Web開催), 2023年8月30日
10. 審査委員: 「第20回森のごちそうコンクール審査員 (鹿児島県, 鹿児島県竹産業振興会連合会, 鹿児島県椎茸農業協同組合), (書類審査: 鹿児島県庁) (実演審査: 今村ライセンスアカデミー)」, 2023年10月5日, 2023年11月18日

社会活動

1. 2013年7月～, 鹿児島市慢性腎疾患 (CKD) 予防ネットワーク事業オブザーバー
2. 2013年12月～, 鹿児島市CKD手帳・世界腎臓デー ワーキング委員
3. 2022年4月～, かがしまこども食堂・地域食堂ネットワーク 相談役

木下 朋美 助教

学術論文

1. 「コロナ禍における栄養士養成課程の「校外実習」(給食の運営) についての検討」, 共著, (〇有村恵美, 木下朋美), 「食生活研究」, 2023年5月, pp.207-217 (査読有)

資料

1. 鹿児島県の家庭料理 (昭和30年代から40年代) ～次世代に伝え継ぐために～, 共著 (木下朋美, 山崎歌織, 木之下道子, 新里葉子, 進藤智子, 大山典子, 山下三香子, 大富あき子, 森中房枝), 鹿児島県立短期大学地域研究所研究年報, 第54号, pp.57-76 (2023)

研究協力

1. 国際競争力強化技術開発プロジェクト「輸出促進のための新技術・新品種開発」

調査協力

1. 垂水元気プロジェクト調査チーム

学会活動

- ・日本家政学会
- ・日本調理科学会
- ・日本茶業学会
- ・鹿児島県茶業技術協会

社会還元

1. 講師: 「お茶を知ろう! お茶入りドライカレー作り」, かがしま環境未来館主催学習講座, 於: かがしま環境未来館, 2023年6月17日
2. 産学連携学生指導・マスコミ報道: 2023年5月15日, 県産有機栽培玉露を使用した玉露蒸し饅頭の提供, 南日本新聞2023年5月18日掲載, 日本農業新聞2023年5月16日掲載
3. 産学連携学生指導・マスコミ報道: 2023年7月8日, お茶料理研究会主催お茶料理コンテストでの料理部門優秀賞受賞, 日本農業新聞2023年7月26日掲載, KKB2023年8月3日放送
4. 産学連携学生指導・マスコミ報道: 2023年7月16日, お茶育研究会の活動について, MBCラジオ「てげてげハイスクール→ハウス」出演
5. 審査員: 2023年10月2日, 2023かごしまの新た産品コンクール, 食品部門審査員, 於: サンロイヤルホテル
6. 産学連携学生指導: 2023年10月21日, 環境フェスタかごしま2023出展, 於: かがしま環境未来館
7. 産学連携学生指導・マスコミ報道: 2023年10月26日, 県産有機栽培紅茶を使用したスープとケーキの提供, 南日本新聞2023年11月2日掲載
8. 産学連携・マスコミ報道: 2023年11月1日～12月31日, 茶殻を利用した料理について, MBCラジオ「守ろう地球環境」放送
9. 産学連携学生指導: 2023年11月4日, 第8回かごしま食育フェスタ出展, 於: アミュ広場
10. 産学連携学生指導: 2023年11月25日, かがしまお茶マルシェ 2023出展, 於: アミュ広場
11. 産学連携学生指導: 2023年12月2・3日, かがしまお茶フェス in 霧島・湧水出展, 於:

霧島高原国民休養地前

社会活動

1. 2005年4月～現在, NPO現代喫茶人の会, 理事
2. 2013年4月～現在, お茶料理研究会, 世話人
3. 2016年10月～現在, 鹿児島県茶業会議所, かごしま茶販路拡大対策等活動助成
4. 2017年6月～現在, かごしま黒茶研究会, 会員
5. 2019年1月～現在, 鹿児島市農業振興協議会, 委員
6. 2020年6月～現在, 鹿児島県茶生産協会, 茶業経営向上活動事業

多田 司 准教授

学術論文

1. 「Effect of Dietary Protein Quantity on the Activities of Brain Proteases in Rats」, 単著, 鹿児島県立短期大学『紀要』, 第73巻, 2022年12月, pp.17-22..

学会活動

- ・日本栄養・食糧学会, 1996年4月～, 正会員
- ・日本農芸化学会, 1998年4月～, 正会員

社会還元

1. 講師:「食品添加物を体感しよう」, 宮崎県立飯野高等学校大学訪問ミニ講義, 於: 鹿児島県立短期大学, 2022年6月10日

中熊 美和 助教

学術論文

1. 「哺乳びん及び乳首・キャップの滅菌方法の違いによる比較」, 共著, (○中熊美和, 有村恵美), 『鹿児島県立短期大学研究年報』, 第54号, 2023年3月, pp49-55

資料

1. 「素材の異なるまな板における二次汚染・三次汚染の影響」, 共著, 査読有, (○中熊美和, 有村恵美), 『日本食生活学会誌』, 第34巻, 第1号, 2023年月, pp25-29

その他

1. 研究代表, 科学研究費研究活動スタート支援 日本学術振興会「鹿児島県指宿市鰻地区における火山性蒸気カマド「スメ」を利用した栄養教育法の開発」, 2022～2023年度
2. 調査協力, 垂水元気プロジェクト調査チーム, 2022年～

学会活動

- ・日本病態栄養学会, 2012～
- ・日本臨床栄養代謝学会 (旧 日本静脈経腸栄養学会), 2014～
- ・給食経営管理学会, 2016～
- ・日本透析医学会, 2019～
- ・美味技術学会, 2020～
- ・日本食生活学会, 2022～

社会還元

1. 講師:「研究検討:病態栄養学会で発表しよう!!!」, 2023年日本病態栄養学会セミナー in kagoshima, 於: 鹿児島県立短期大学, 2023年2月26日
2. 栄養指導:口と歯の健康週間, 於: 鹿児島市山形屋, 2023年6月3日

中西 智美 准教授

学術論文

1. 学校全体で嘔むことに関する指導を推進・充実させるための方策」, 共著, (○土元麻未, 吉田三千代, 鎌田理恵, 小野真優子, 中西智美, 児玉むつみ, 中馬和代, 榊順子, 金田雅代, 饗場直美), 『栄養教諭食育研究会誌』, 第7号, 2023年12月, pp.33-39.

学会発表 (口頭)

1. 「小学生の保護者の嘔むことを中心とした食育に関する意識と指導の実態」, 共同, (○榊順子, 中西智美, 児玉むつみ, 中馬和代, 金田雅代, 饗場直美他6人), 第70回日本栄養改善学会学術総会, 口頭発表, 於: 名古屋国際会議場, 2023年9月2日, 第70回日本栄養改善学会学術総会講演要旨, p 186

研究大会発表 (ポスター)

1. 「『新しい生活様式の中で嘔むことに関する給食の時間の指導について学級担任の意識と指導の実態』【第2報】～特別支援学校における嘔む指導の現状～」, 共同, (○中西智美, 土元麻未, 鎌田理恵, 金田雅代, 饗場直美), 第7回栄養教諭食育研究大会, ポスター発表, 於: とうしんなびの丘”エール”, 2023年12月3日, 『栄養教諭食育研究会誌』, 第7号, 2023年12月, p.41, p44-45.

その他

1. 研究実施者, 科学研究費基盤研究 (C) 日本学術振興会「栄養教諭の学校給食を教材とする食育の実践状況と効果的な展開法について

の研究」, 2022-04-01 ~ 2025-03-31

学会活動

- ・日本栄養改善学会, 2016年3月～
- ・日本摂食嚥下リハビリテーション学会, 2023年3月～
- ・鹿児島県小児保健学会, 2013年8月～
- ・栄養教諭食育研究会, 2015年4月～

社会還元

1. 講師

令和5年度小児訪問看護師育成研修会(於:鹿児島看護協会)「医療的ケア児の栄養管理～発達期の食事支援～」2023年6月17日

2. 講師

令和5年度「地域体験実習」(於:鹿児島大学歯学部)「特別支援学校における摂食指導の実際」, 2023年11月15日

3. 指導者

令和5年度県立中種子特別支援学校二次調理における栄養教諭派遣指導, 県教育委員会保健体育課,(於:中種子特別支援学校)2021年4月～現在

その他

1. 情報提供

「そよかぜ」かごしま子ども在宅療養ナビ【子どものケア(発達嚥下調整食)】, 鹿児島県くらし保健福祉部子ども家庭課HP, 2023年3月～

広瀬 直人 教授

学会発表(口頭)

1. 「X線CT装置を用いた黒糖中の空隙測定条件」, 共同, (○広瀬直人, 棚原靖, 高良健作, 和田浩二), 日本食品保蔵科学会第72回大会, 於:熊本県立大学, 2023年6月18日, 日本食品保蔵科学会第72回大会講演要旨集, p.117.
2. 「サトウキビ搾汁成分と黒糖品質の関係」, 共同, (○前田剛希, 土田永渡, 井上裕嗣, 平松梢, 與儀喜代政, 目取真要, 広瀬直人), 日本食品保蔵科学会第72回大会, 於:熊本県立大学, 2023年6月18日, 日本食品保蔵科学会第72回大会講演要旨集, p.116.

学会活動

- ・日本農芸化学会, 1990年～
- ・日本食品科学工学会, 2005年～, 本部理事, 西日本支部評議員
- ・日本食品保蔵科学会, 2008年～, 理事, 総務委

員, 企画・広報委員

社会還元

1. 講師:「シークワシャーの未利用資源活用」, 第33回西日本食品産業創造展23機能性食品特別セミナー, 於:西日本総合展示場, 2023年5月24日
2. 講師:「健康維持に資する食品の企画と製造」, 食品免疫機能分析学特論公開講義, 於:九州大学大学院農学研究院, 2023年11月29日

社会活動

1. 2023年9月～2024年3月, 黒糖品質検査アドバイザー(沖縄県)

古川 那由太 助教

学会発表(口頭)

1. 「高耐糖性および冷凍耐性を有する*Lachancea fermentati* KPC1の発酵特性」単独, 令和5年度日本食品科学工学会西日本支部大会, 於:九州大学西新プラザ, 2023年10月28日

学会活動

- ・日本生化学会2012年6月～
- ・日本農芸化学会2012年11月～
- ・日本食品科学工学会2022年5月～
- ・日本食品保蔵科学会2023年11月～

社会還元

1. 講師:「まさにミラクル!?味覚を変える食べ物・飲み物」, 宮崎県立飯野高等学校大学訪問ミニ講義, 於:鹿児島県立短期大学, 2023年6月8日

社会活動

1. 2023年1月21日, 中高生の学会サイエンスキャッスル2022九州大会ポスター審査員, 於:九州大学椎木講堂
2. 2023年12月23日, 中高生の学会サイエンスキャッスル2023中四国大会ポスター審査員, 於:岡山理科大学岡山キャンパス

その他専門分野での発表業績

1. 「*Saccharomyces cerevisiae* KPC2 genes for 18S rRNA, ITS1, 5.8S rRNA, ITS2, 28S rRNA partial, and complete sequence.」, 単独, DDBJ/EMBL/GenBank databases, Accession number:LC770122, 2023年6月8日

山下 三香子 教授

学術論文

1. 鹿児島県の家料理(昭和30年代から40年

代)～次世代に伝え継ぐために～」, 共著(木下朋美, 山下三香子, 他7名), 『研究年報2022』, 第54号, 2023年3月pp.57—76

学会発表(口頭)/学会発表(ポスターセッション)

1. 「地域在住高齢者におけるビタミンK摂取量とうつの関係 - 垂水研究データを用いた横断研究 -」, 共同(改元香, 山下三香子, 他10名), 日本ビタミン学会第75回大会, 於: 東北大学, 2023年6月
2. 「在宅医療・介護の栄養管理提供に関わる介護福祉専門員について」, 共同(○山下三香子, 松井幾子, 渡邊静), 第11回日本食育学会学術大会, 於: 北海道文教大学, 2023年6月
3. 「九州支部の多様な調理法と家庭料理の伝承調査-調理器具(電子レンジ・フライパン), 複合調味料の使用状況-」(ポスター), 共同(○山下三香子, 他5名), 日本調理科学会2023年度大会, 於: 広島県立大学, 2023年9月
4. 「在宅医療・介護の栄養管理提供に係る会員職種専門員から見える栄養ケア」(ポスター), 共同(○渡邊静, 松井幾子, 山下三香子), 日本公衆衛生学会, 於: つくば国際会議場, 2023年10-11月
5. “OPINION AND SITUATION OF CARE SUPPORT SPECIALISTS IN NUTRITION CARE SERVICES AT HOME IN JAPAN” ○Ikuko Matsui, Shizuka Watanabe, Mikako Yamashita, 54th ASIA-PACIFIC ACADEMIC CONSORTIUM OF PUBLIC HEALTH (APACPH) CONFERENCE 2023 30TH OCT-1 ST NOV 2023, BORNEO CONVENTION CENTRE KUCHING (BCCK), SARAWAK, MALAYSIA

その他(研究協力)

1. 『在宅医療・介護ケアにおける管理栄養士・栄養士教育について』, 科学研究費助成事業基盤研究(C)分担者
2. 垂水元気プロジェクト調査チーム

学会活動

- ・「日本給食経営管理学会」代議員
- ・鹿児島農村医学研究会調査研究委員会幹事
- ・日本調理科学会鹿児島幹事

社会還元

1. 講師「食育リーダーは食改さん～鹿児島の食を通して伝えたいこと～」, 食生活改善推進

研修会, 於: 鹿児島市中央公民館, 2023年5月

與儀 幸朝教授

学会活動

- ・日本武道学会, 2011年8月～
- ・日本発育発達学会, 2012年4月～
- ・日本学校保健学会, 2011年4月～

社会還元

1. 講師: 「体育・保健体育指導力向上研修」, スポーツ庁, 於: 京都市リサーチパーク, 2023年5月
2. 講師: 「学校部活動及び地域クラブ指導者研修会」, 鹿児島県教育委員会, 於: オンライン開催, 2023年5月
3. 講師: 「児童生徒体力向上研修会」, 志布志市教育委員会, 於: 志布志市役所, 2023年5月
4. 講師: 「保健体育研修会」, 鹿児島県体育研究会, 於: 鹿児島県教育会館, 2023年6月
5. 講師: 「高等学校, 特別支援学校保健・保健体育担当者研修会」, 鹿児島県教育委員会, 於: 鹿児島県総合教育センター, 2023年6月
6. 講師: 「学校体育スポーツ研修」, 広島県教育委員会, 於: 広島県立総合体育館, 2023年7月
7. 講師: 「柔道指導員養成講習会」, 鹿児島県柔道会, 於: 鹿屋体育大学, 2023年7月
8. 講師: 「部活動指導者研修会」, 志布志市教育委員会, 於: 志布志市文化会館, 2023年8月
9. 講師: 「子どもの体力とからだの成長」, 伊敷公民館講座, 於: 伊敷公民館, 2023年10月
10. シンポジスト: 「全国学校体育研究大会(山形県)」シンポジウム, スポーツ庁, 於: やまぎん県民ホール, 2023年11月
11. 講師: 「柔道指導員養成講習会」, 全日本柔道連盟, 於: 福岡医療専門学校, 2023年11月
12. 講師: 「幼児向け親子運動教室」, 鹿児島市スポーツ振興協会, 於: 松元武道館, 2023年11月
13. シンポジスト: 「運動部活動の地域移行研修会」シンポジウム, 沖縄県教育委員会, 於: 沖縄県総合教育センター, 2023年11月
14. 講師: 「PTA教育講演会」, 志布志市立香月小学校, 於: 香月小学校, 2023年12月
15. 講師: 「学校体育研究発表大会講演会」, 兵庫県教育委員会, 於: 兵庫県看護協会ハーモ

ニーホール, 2024年2月

16. 講師:「幼児向け親子運動教室」, 鹿児島市スポーツ振興協会, 於:鹿児島アリーナ, 2024年2月

社会活動

- 2023年度, 日本武道学会評議員, 柔道専門分科会理事, 九州支部副支部長
- 2023年度, スポーツ庁学校体育振興事業技術審査専門員
- 2023年度, 全日本柔道連盟指導者養成委員会副委員長
- 2023年度, 鹿児島県部活動地域連携等推進協議会委員長
- 2023年度, 鹿児島県「運動大好きかごしまっ子」育成推進事業(武道等)協力者会議委員長
- 2023年度, 鹿児島県体力向上検討委員会委員
- 2023年度, 鹿児島市スポーツ推進審議会会長
- 2023年度, 鹿児島市多機能複合型スタジアム検討協議会会長
- 2023年度, 鹿児島市学校部活動地域連携等推進協議会委員長
- 2023年度, 志布志市体力向上推進アドバイザー

生活科学専攻

浅海 真弓 准教授

学会発表(口頭)

- 「AI技術を利用した繊維製品のしわ外観の等級判定」, 共同(○浅海真弓, 長浜小春, 遠藤祐里, 森俊夫), 日本家政学会第75回大会, 於:東京家政大学, 2023年5月27日, 日本家政学会第75回大会研究発表要旨集, p.87.
- 「多色系色柄布の暖寒感の色相角に基づいた分類」, 共同(○長浜小春, 金子真希, 浅海真弓, 森俊夫), 日本繊維製品消費科学会2023年年次大会, オンライン開催, 2023年6月25日, 日本繊維製品消費科学会2023年年次大会・研究発表要旨, p.22.

学会活動

- ・日本衣服学会, 2003年6月～
- ・日本繊維製品消費科学会, 2004年2月～
- ・日本家政学会, 2004年6月～, 日本家政学会被服材料学部会幹事(2017年5月～), 日本家政

学会被服材料学部会役員(2021年5月～), 日本家政学会九州支部常任幹事(2022年6月～)

社会還元

- 取材協力・出演:MBCニューズナウ「“パチ”と不快な静電気 なぜ冬場に多い?対策は?」, 2023年1月6日

上笹貫 鷹暁 助教

学会活動

- ・日本デザイン学会, 2022年4月～

社会還元

- 講師:「だれでもデザイン」, 出張講義, 於:鹿児島玉龍高等学校, 2023年11月9日
- TV取材:「県立短大×地域校区の枠を超えたバスケットチーム始動」, MBCニューズナウ(MBC南日本放送), 2023年5月3日

デザイン(実務)

- 「LANI BASKETBALL CLUBブランディングデザイン(エンブレム, トレーニングウェア, ユニフォーム, 横断幕, フライヤー他)」, アートディレクション, 2023年3月
- 「Basketball Analyst アプリアイコンデザイン」(株式会社バスケプラス), アートディレクション, 2023年4月
- 「Volley Plus アプリストア用スクリーンショット(4点)」(株式会社バスケプラス), アートディレクション, 2023年8月

掲載作品

- 「GO CYCLING KAGOSHIMA ロゴマーク」, 『日本タイポグラフィ年鑑2023』(パイインターナショナル), 2023年4月, p.95

川島 茂 教授

学会活動

- ・日本建築学会
- ・日本建築家協会

社会還元

- 2022年12月15日～2023年1月17日, ちいさないえのけんちく展/鹿児島県立短期大学(6坪ギャラリー)学生作品展示支援, 展示計画
- 2023年2月1日～7日, 「生活科学専攻卒業研究作品展2023」(学内展)学生作品展示支援, 展示計画協力
- 2023年2月25日～26日, 「鹿児島建築学生合同設計展 Kagoshima Design Project 2022」(かごしま県民交流センター)学生作品展示支援,

展示計画協力

- 2023年3月4日, 「鹿児島県立短期大学建築卒業制作講評会」(かごしま環境未来館/主催: 民家再生協会かごしま) 学生作品展示, 講評支援
- 2023年3月8日~3月13日, 「生活科学専攻卒業研究作品展2023」(マルヤガーデンズ Unitement garden) 学生作品展示支援, 展示計画協力
- 2023年3月~, 桜島地域における義務教育学校整備検討委員会委員
- 2023年5月~7月, 南大隅町神山小学校屋内運動場建替基本・実施設計指名型プロポーザル審査委員会委員
- 2023年7月~8月, 天文館電車通りジョイントアーケード設計業務デザインアドバイザー会議構成員
- 2023年7月~, 鹿児島港本港区エリアにおける景観・デザイン調整会議委員
- 2023年7月~12月, 曾於市立末吉小学校建替基本計画ワークショップファシリテーター
- 2023年9月2日~3日, かごしま住まいと建築展(アミュプラザ鹿児島AMU広場) 学生作品展支援, 展示計画
- 2023年10月21日~22日, JIA建築展(黎明館) 2022年度卒業制作作品出展企画支援
- 2023年11月9日, 出張講義「建築設計競技を考える」(鹿児島玉龍高等学校)
- 2023年11月24日, 鹿児島県建築士会建築技術講習会(始良・伊佐地域振興局伊佐市庁舎) 講師「建築を設計すること」ということ
- 2023年12月15日~2023年1月17日, ちいさないえのけんちく展/鹿児島県立短期大学(6坪ギャラリー) 学生作品展示支援, 展示計画

社会活動

- ・2020年4月~, 鹿児島市都市計画審議会委員
- ・2022年4月~, 日本建築学会九州支部鹿児島支所評議員
- ・2022年4月~, 日本建築家協会九州支部事業委員会25年賞ワーキンググループ委員
- ・2023年3月~, 鹿児島市景観審議会委員

北 一浩 准教授

社会還元

- 講師: 「同じ? 違う? デザインとアートの話」, 伊敷公民館講座いきいき大学, 於: 伊敷公民

館, 2023年11月1日

- 講師: 「大島紬を紡いでいく」, 奄美群島日本復帰70周年記念特別講演会, 於: 鹿児島県立奄美図書館, 2023年11月3日

社会活動

- 2018年4月~, 鹿児島市クリエイティブ産業育成支援検討委員

受賞

- Collectors Art Prize (主催: CONTEMPORARY ART CURATOR MAGAZINE), 「Canvas of Dorozome #69」他7作品, 受賞, 2023年4月

デザイン (実務)

- 「鹿児島海上保安部オリジナルグッズデザイン」, アートディレクション, 2023年9月
- 「鹿児島県身体障害者福祉協会イベントチラシデザイン」, アートディレクション, 2023年11月
- 「鹿児島市立明和小学校創立50周年記念キャラクター, 記念グッズ, 記念誌デザイン」, アートディレクション, 2023年12月

坂上 ちえ子 教授

学会活動

- ・日本家政学会, 1990年~
- ・日本色彩学会, 1992年~, 評議員, 関西支部役員, 光学四学会関西支部幹事
- ・「令和4年度関西支部大会報告」, 日本色彩学会誌『色彩学』, Vol.2, No.2, p.103.
- ・日本生理人類学会, 1992年~
- ・日本教育心理学会, 2005年~

社会還元

- 講師: 「カラーコーディネート入門」, ミニ講義: 宮崎県立飯野高等学校, 於: 本学視聴覚室, 2023年6月8日
- 講師: 「ファッションビジネス」, 出張講義, 於: 鹿児島女子高等学校, 2023年7月12日
- 講師: 「ファッションビジネス」, 出張講義, 於: 明桜館高等学校, 2023年7月25日
- 講師: 「私たちの消費者問題 - 近年の消費者被害例も含めて -」, 伊敷公民館講座, 於: 伊敷公民館, 2023年10月11日

社会活動

- 2023年3月~2025年2月, 鹿児島県伝統工芸品産業振興対策協議会委員
- 2022年4月~2024年3月, 鹿児島市屋外広

告物審議委員会委員

- 2021年4月～2024年3月, 鹿児島県屋外広告物審議委員会委員
- 2022年6月～2024年5月, 鹿児島市景観アドバイザー
- 2023年6月～2025年5月, 薩摩川内市景観審議会委員
- 2023年8月, 天文館通電停前アーケードデザインアドバイザー会議委員

穴戸 克実 准教授

著書

- 八木久美子編『イスラーム文化事典』, 丸善, 共著, 2023年1月, 720総頁, 担当頁: 第11章, 娯楽, 「コーヒーハウス (トルコ, エジプト)」 pp.446-447

その他 (委託業務)

- 文化庁・令和4年度緊急的文化遺産保護国際貢献事業 (専門家交流) 実施委託業務「カイロ旧市街の持続可能な保護策のための事業/住民参加のまちづくり」, 責任者: 連健夫 (日本建築まちづくり適正支援機構), ~2023年3月31日

学会活動

- ・日本建築学会
- ・日本中東学会
- ・地中海学会
- ・日本トルコ交流協会

田邊 しずか 助教

学会活動

- ・服飾文化学会, 2016年5月～

社会還元

- 講師: 公益社団法人日本理容美容教育センター理容師美容師養成施設教員資格認定研修会文化論講師, 「ファッション文化史西洋編 (前半), 礼装の種類」, 於: 日本理容美容教育センター, 2022年8月25日, 29日

社会活動

- ・2022年6月29日～公益財団法人かごしま環境未来財団評議員

商経学科

経済専攻

岩上 敏秀 教授

学会活動

- ・日本ファイナンス学会, 2022年1月～
- ・日本金融学会, 2022年5月～

社会還元

- 講師: 「今さら聞けない! ニュースを読み解くための経済講座」, 2023年度東京理科大学オープンカレッジ講座, 2023年5～6月 (春夏期) 及び2023年10～11月 (秋冬期)

福田 忠弘 教授

著書

- 岩井美佐紀編『現代ベトナムを知るための63章』明石書店, 2023年2月, 425総頁, 担当頁: 第50章, pp.313-316

社会還元

- 講師: 「地域に感動を」, 於: 枕崎ライオンズクラブ第1365回例会, 2023年10月19日
- 講師: 「枕崎のカツオと原耕」, 於: 鹿児島県立伊集院高校, 2023年10月26日
- 講師: 「カツオの民俗」, 於: 第10回枕崎カツオマイスター検定講習会, 2023年11月19日

その他 (研究助成)

- 研究代表, 科学研究費基盤研究 (C) 日本学術振興会「戦前期日本人水産業者の外南洋進出と南進論」, 2020年4月～2024年3月.

船津 潤 准教授

学術論文

- 「シリセナ大統領期のスリランカ財政-多層的構造を踏まえた財政分析 (中)」, 単著, 『鹿児島県立短期大学紀要 人文・社会科学篇』第73号, 2022年12月, pp.1-20.

学会活動

- ・日本地方財政学会, 2000年～
- ・日本財政学会, 2000年～

社会還元

- 講師
「企業と政府」, 生き生き大学 (鹿児島市伊敷公民館主催), 於: 伊敷公民館, 2023年11月22日

社会活動

(非公開)

山口 祐司 講師

著書

1. 河音琢郎・豊福裕二・野口義直・平野健編
『21世紀のアメリカ資本主義』, 大月書店,
2023年3月, 347総頁, 担当章: 第11章,
pp.197-210

社会還元

1. 講師
「グローバル化って何?」, 出張講
義, 於: 明桜館高校, 2023年7月25日

経営情報専攻

岡村 俊彦 教授

学会活動

- ・ 日本人間工学会, 1987年4月～
- ・ 日本生理心理学会, 1988年4月～
- ・ 日本心理学会, 1989年10月～

社会還元

1. 講師:「AIから始まる新しい社会」オープン
キャンパス模擬講義, 於: 鹿児島県立短期大
学, 2023年7月22日
2. 講師:『講座: ICT技術とプログラミングの
基礎』において「AIとDXが社会にもたらす
影響」, 「効率的な業務推進に役立つパソコン
操作のコツ」を担当。中堅教諭等資質向上研
修於: 鹿児島県立短期大学, 2023年7月26日
3. 講師:「AI, IoT, ビッグデータの三角関係」
出張講義, 於: 国分高校, 2023年8月22日

社会活動

1. 社会活動, 2003年4月～, 鹿児島産業保健総
合支援センター 特別相談員
2. 社会活動, 2007年4月～, 鹿児島女子高等学
校学校評議員
3. 社会活動, 2013年3月～, 鹿児島ラ・サール
学園評議員

岡村 雄輝 准教授

学会活動

- ・ 日本簿記学会 (2018年8月～)
- ・ 日本記号学会 (2017年4月～)
- ・ 日本会計研究学会 (2013年9月～)
- ・ 日本会計史学会 (2012年10月～)
- ・ 九州経済学会 (2009年12月～)

社会活動

1. 2019年9月～, 鹿児島県公衆浴場入浴料金審

議会委員

倉重 賢治 教授

学術論文

1. 「製品の個別搬送を可能とした混合組立ライ
ン」, 共著, (○倉重賢治, 柳川佳也), 『日本
経営工学会論文誌』, Vol.74, No.2, 2023年
7月, pp.98-101

学会発表 (口頭) / 学会発表 (ポスターセッション)

1. 「AHPを用いた観光地の選定—シミュレ
ーションによる固有ベクトル法とファジイ線形
計画法の比較—」, 単独, 日本生産管理学会
第57回全国大会講演論文集, pp.18-19, 2023
年3月
2. 「Selection of a Tourist Spot using AHP-
Comparison Results of Eigenvector Method and
Fuzzy Linear Programming Method by Simulati
on-」, 単 独, Proceedings of the 5th ICPM
2023, pp.30-31, 2023年9月
3. 「多段階組立工程における従属型搬送システ
ムと独立型搬送システムのメクスパンに関
する比較」, 共同, (○森本陽太郎, 倉重賢治,
柳川佳也, 有菌育生), 2023年度日本経営工
学会秋季研究大会, pp.51-52, 2023年10月

学会活動

- ・ 日本経営工学会, 1993年～
- ・ 日本機械学会, 1994年～
- ・ 日本生産管理学会, 2003年～

社会還元

1. 講師:「ICT技術とプログラミングの基礎」,
パワーアップ研修 (中堅教諭等資質向上研
修), 2023年7月26日
2. 講師:「確率でみる野球」, ミニ講義: 指宿商
業, 於: 鹿児島県立短大視聴覚室, 2023年11
月2日

瀬口 毅士 准教授

著書

1. 日高克平他編著, 『SDGs時代を拓くグローバ
ル・ビジネスの挑戦』, 中央大学出版部, 共
著 (○日高克平, 瀬口毅士, 他7名), 2023
年9月, 165総頁, 担当箇所: 第5章「多国
籍企業の市場戦略と文化政治」, pp.77-93.

学会活動

- ・ 日本経営学会, 2006年～
- ・ 日本比較経営学会, 2004年～

- ・多国籍企業学会, 2013年～
- ・日本流通学会, 2014年～
- ・経営史学会, 2014年～

社会活動

1. 2021年10月～, 鹿児島市新規創業者等育成支援検討委員会委員
2. 2023年4月～, 鹿児島地方最低賃金審議会委員

竹中 啓之 准教授

社会活動

1. 2021年6月～, 公益財団法人鹿児島住宅・建築総合センター評議会 評議委員

近間 由幸 講師

著書

1. 大原社会問題研究所編『日本労働年鑑』, 旬報社, 2023年6月, 571総頁, 担当箇所: 第二部第三章「主要産業の動向」(「商業・流通・サービス業」の項), pp.236-240

書評

1. 「首藤若菜著『雇用か賃金か日本の選択』」, 単著, 『自治研かごしま』, 第132号, 2023年4月, p.36
2. 「鈴木一著『小さな労働組合勝つためのコツ』」, 単著『労働総研クォーター』, 第127号, 2023年8月, pp.34-39

学会活動

- ・日本労働社会学会, 2015年～, 幹事, 2022年12月～
- ・社会政策学会, 2016年～, 春季大会企画委員会, 2022年8月～, 学会誌編集委員会, 2022年8月～
- ・労務理論学会, 2019年～

二部商経学科

宗田 健一 教授

学術論文

1. 「遠隔授業時代の高校会計教育 —アンケート調査に基づく実態解析—」共同 (○宗田健一, 榑部幸子), 『商経論叢』 (鹿児島県立短期大学) 第74号, 2022年10月, 1-27頁。

学会年報

1. ○平賀正剛, 宗田健一他8名「日本の中小企

業会計の基礎概念に関する研究 —文化的視座からのアプローチ— (課題研究委員会最終報告) 『中小企業会計研究』 (中小企業会計学会学会誌編集委員会編) 第9号, 39-42頁, 2023年9月。

学会発表 (口頭)

1. 「Robotic Process Automation (RPA) が中小企業会計に与える影響 —RPAメーカー・ベンダー, 税理士法人へのインタビュー調査を基礎として—」, 共同 (○宗田健一, 榑部幸子), 中小企業会計学会第11回全国大会自由論題報告, 専修大学 (対面開催), 2023年11月12日。
2. 「デフォルトリスクを回避するために中小企業会計が果たす役割 コロナ禍・アフターコロナにおける税理士業務実態調査アンケートの結果をもとに」, 共同 (○榑部幸子, 宗田健一), 中小企業会計学会第11回全国大会自由論題報告, 専修大学 (対面開催), 2023年11月12日。

学会活動

- ・日本会計研究学会, 2002年～現在, 会員
- ・国際会計研究学会, 2007年～現在, 会員
- ・日本簿記学会, 2008年～現在, 会員
- ・日本会計教育学会, 2009年～現在, 会員
 - 理事 (2017年～現在, ICT 委員長: 2023年～現在)
- ・中小企業会計学会, 2013年～現在, 会員
 - 理事 (担当: 渉外), 2021年～現在
 - 学会誌編集委員会 (委員), 2021年～現在
 - 課題研究委員会 (委員), 「書面添付制度に関する委託研究」, 2023年11月～2025年11月 (予定)
- ・日本経済会計学会, 2015年～現在, 会員
- ・日本管理会計学会, 2017年～現在, 会員
- ・日本財務管理学会, 2019年～現在, 会員
- ・日本経営会計専門家研究学会, 2022年～現在, 会員
- ・American Accounting Association, 2023～現在, 会員

社会還元

1. 講師: 鹿児島国際大学サテライトキャンパス「企業経営基礎講座」講師 (2023年10月)

社会活動

1. 龍谷大学校友会鹿児島支部 理事, 2017年度～現在

2. 非公開3件

その他－競争的資金（学外）

1. 科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金），研究課題名：「デジタル化時代における中小企業の会計情報作成プロセスに関する研究」（研究代表者），研究種目：令和5（2023）年度 基盤研究（C），課題番号：23K01691，補助事業期間：2023～2025年度
2. 科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金），研究課題名：「新型コロナ支援融資を受けた中小企業のデフォルトリスクに関する理論的・実態的分析」（研究分担者），研究種目：令和3年度 基盤研究（C），課題番号：21K01830，補助事業期間：2021年度～2023年度

その他－競争的資金（学内）

1. 鹿児島県立短期大学地域研究所，「新型コロナ支援融資等を受けた鹿児島県内中小企業の調査」（代表者），共同プロジェクト，2021年度～2023年度（予定）
2. 鹿児島県立短期大学地域研究所，「宇宙ゴミ排出権取引会計の基礎研究」（代表者），個人プロジェクト，2022年度～2024年度（予定）
3. 鹿児島県立短期大学地域研究所，「中小企業におけるデジタル化対応の現状と課題」，研究成果公開，2023年度

田口 康明 教授

学術論文

1. 国連障害者権利条約の対日勧告と「4. 27交流教育制限通知」の問題点－文科省通知による個々の子どもたちのカリキュラム変更は可能か－ 公教育計画研究14 公教育計画学会編 八月書館 21023年8月25日

資料

1. 共著 2022年度の教育実習実態調査 研究年報2022 鹿児島県立短期大学地域研究所 2022年3月

研究ノート

1. 現代ドイツにおける国連障害者権利条約の批准を受けた教育改革－断片的な記述（1）－ 商経論叢第74号 商経論叢編集委員会編 鹿児島県立短期大学 2023年10月31日

社会還元

1. 講師：伊敷公民館講座 「変わる学校教育

この100年で何かおきたか」10月25日

学会活動

1. 日本教育政策学会第30回大会実行副委員長（於：鹿児島大学 7月8～9日）

疋田 京子 教授

学会活動

- ・アジア法学会（理事）2010年～現在
- ・日本法哲学会 1993年～現在
- ・ジェンダー法学会 2013年～現在

社会還元

1. 第47回全国高等学校総合文化祭・放送部門（オーディオメッセージ部門）審査員

社会活動

2. 2014年12月6日～現在，鹿児島県事業認定審議会委員
3. 2018年～現在 社会福祉法人明澈会「南さつま子どもの家」施設評価委員

山本 敬生 准教授

学会活動

1. 日本公法学会，2001年10月～現在
2. 行政判例研究会，2001年10月～現在

社会還元

1. 2005年3月～現在，鹿児島県地方自治研究所 研究理事
2. 2013年4月～現在，同研究所自治体創造プロジェクト 主査
3. 2017年11月～現在，自治研かごしま編集長
4. 2013年4月～現在，鹿児島県市町村統一的情報公開・個人情報審査会（会長）
（枕崎市，指宿市，西之表市，日置市，曾於市，いちき串木野市，南さつま市，志布志市，伊佐市，三島村，十島村，さつま町，長島町，湧水町，大崎町，東串良町，錦江町，南大隅町，肝付町，中種子町，南種子町，屋久島町，大和村，宇検村，瀬戸内町，龍郷町，喜界町，徳之島町，天城町，伊仙町，和泊町，知名町，与論町，鹿児島県市町村総合事務組合，いちき串木野市・日置市衛生処理組合，指宿南九州消防組合，指宿広域市町村圏組合，大隅曾於地区消防組合，大隅肝属地区消防組合，沖永良部与論地区広域事務組合，徳之島地区消防組合，曾於南部厚生事務組合，熊毛地区消防組合，曾於地区介護保険組合，大隅肝属広域事務組合，公立種子島病院組合，鹿児島県

- 後期高齢者医療広域連合、種子島地区広域事務組合、以上鹿児島県市町村統一の情報公開・個人情報審査会に加盟する9市24町村15組合の情報公開・個人情報審査会（会長）
5. 2013年4月～現在、鹿児島県市町村統一の行政不服審査会（会長）

（鹿屋市、枕崎市、指宿市、西之表市、垂水市、日置市、曾於市、いちき串木野市、南さつま市、志布志市、南九州市、伊佐市、三島村、十島村、さつま町、長島町、湧水町、大崎町、東串良町、錦江町、南大隅町、肝付町、中種子町、南種子町、屋久島町、大和村、宇検村、瀬戸内町、龍郷町、喜界町、徳之島町、天城町、伊仙町、和泊町、知名町、与論町、鹿児島県市町村総合事務組合、いちき串木野市・日置市衛生処理組合、南薩地区衛生管理組合、沖永良部バス企業団、指宿南九州消防組合、指宿広域市町村圏組合、曾於北部衛生処理組合、南大隅衛生管理組合、伊佐湧水消防組合、沖永良部衛生管理組合、大口地方卸売市場管理組合、伊佐北始良環境管理組合、大隅曾於地区消防組合、大隅肝属地区消防組合、伊佐北始良火葬場管理組合、曾於地域公設地方卸売市場管理組合、沖永良部与論地区広域事務組合、徳之島地区消防組合、曾於南部厚生事務組合、熊毛地区消防組合、種子島地区広域事務組合、大隅肝属広域事務組合、徳之島愛ランド広域連合、公立種子島病院組合、鹿児島県後期高齢者医療広域連合、種子島産婦人科医院組合、以上鹿児島県市町村統一の行政不服審査会に加盟する12市24町村26組合の情報公開・個人情報審査会（会長）
 6. 2015年3月～現在、いちき串木野市自治基本条例推進審議会委員
 7. 2015年6月～現在、鹿児島県後期高齢者医療広域連合特定個人情報保護評価審査会委員
 8. 2017年4月～現在、鹿児島県市町村総合事務組合退職手当審査会委員
 9. 2017年2月～現在、霧島市情報公開・個人情報保護審査会委員（会長）
 10. 2017年2月～現在、霧島市個人情報保護審議会委員（会長）
 11. 2017年2月～現在、霧島市行政不服審査会委員（会長）
 12. 2017年4月～現在、始良市公平委員会（委員長）
 13. 2017年5月～現在、始良市行政不服審査会委員（会長）
 14. 2018年12月～現在、鹿児島県全国がん登録情報有識者会議委員
 15. 2022年9月～2023年3月、錦江町水源地域保全条例（仮称）有識者検討会議委員
 16. 2023年11月、始良市行政改革推進委員会委員（会長）
 17. 2023年1月11日、南日本新聞コメント「垂水市の課題上 長期的視点で議論を」
 18. 2023年2月2日、南日本新聞コメント「1票格差2倍超常態化」
 19. 2023年2月7日、南日本新聞コメント「県議会考5 住民との距離」
 20. 2023年4月11日、読売新聞コメント「女性躍進当選最多11人」
 21. 2023年4月26日、南日本新聞コメント「30代議員続々誕生」
 22. 2023年12月30日、南日本新聞コメント「点検下鶴市政5 政治手法」

『KUROSHIO』第49巻

2024年3月31日 発行

編集・発行 鹿児島県立短期大学地域研究所

〒890-0005

鹿児島市下伊敷一丁目52番1号

TEL：099-220-1111

FAX：099-803-4473

印刷所 株式会社あすなろ印刷

〒890-0041

鹿児島市城西2-2-36

TEL：099-214-3757

FAX：099-214-3758

表紙写真：森田美帆
